



地域包括ケアシステムの構築を
冒途に、三崎地区エリアにて地域診
断を試みることにした。それは、当該
地域に①支援を提供しなければい
けない人がどれだけいて、②その地
域に現在どのような資源・サービスが
あり、③対象者は既存サービスをど
のように利用しているのかを把握・分
析したうえで、④足りない資源・サー
ビスは何かを把握する作業である。

地域包括ケア推進の ための地域診断書

東岡区の場合

社会福祉法人三浦市社会福祉協議
会地域包括支援センター「おまかせ」
平成31年 3月31日

地域診断

2019 Mar.

contents

2	はじめに
4	対象地域
4	地域診断エリア
5	人口・世帯数の推移
5	交通と安全
7	教育環境の状況
7	経済・産業・医療
8	仮説と持続可能な地域社会の構築に向けたビジョン
9	東岡区の調査結果
9	■直撃！キーマンに聞いた 東岡区長 西野 佐賀子さん
12	■民生委員の思い 東岡区民生委員 米田 ふさ子さん、平野 まさみさん、脇谷 和之さん 齋藤 喜美さん、塙 秀夫さん
15	■東岡区における地域踏査の概要
15	●ソフト面（人々の暮らし、助け合いの仕組み等）住民ヒアリング
24	●ソフト面（人々の暮らし、助け合いの仕組み等）店舗・会社等
37	●ソフト面（人々の暮らし、助け合いの仕組み等）活動団体ヒアリング
42	●ハード面（ユニバーサルデザインによるまちづくりは進んでいるか？）
65	■東岡区支え合いの地域づくりの会の取り組み
69	結果
71	今後に向けて～「誰もがいつまでも安心して暮らしていくために」
74	編集後記

はじめに

私たちは今、一つの覚悟を求められている。

三浦市の高齢者を取り巻く環境を俯瞰すると、決して安穩としてはいられない—というのが、衆目の一致するところではないだろうか。国交省が公表した公示地価（平成 30 年 1 月 1 日時点）でも、三浦半島の下落傾向は顕著で、お隣の横須賀市と共に下落率のワースト 10 を独占してしまった。実質所得の伸び悩みが、不動産取引を低調なものとし、住宅地の価格を抑制している—というのが専らの見方である。超少子高齢化、人口減少、地域経済の低迷といった負のスパイラルが、その要因であることは、容易に想像がつこう。こうした悪条件が、「どうせ…」といった、ある種の諦観を招くのである。事実、地価の下落は税収にも跳ね返る。

いずれにしても、この三浦市において、手放しで喜べるような光明を見いだすのは難しい。

そうした中、「地域包括ケアシステムの強化のための介護保険法等の一部を改正する法律（地域包括ケアシステム強化法）」が、平成 29 年 5 月 26 日の参院本会議で可決・成立。これによって、どの自治体においても、当該地域社会の特性に応じた「地域包括ケアシステム」を構築することが強く求められるようになった。地域包括ケアシステムとは、「**高齢者が要介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるようにサポートし合う社会システム**」のことで、自助、互助といったシステムの骨格部分の形成を住民に委ねられていることを特徴とする。一方で、この領域が脆弱では、強固な仕組みを構築することはできない。

当法人では、従前から「地域包括ケアシステム」の構築を推進してきたわけだが、その立場からすると同法は、まさにそれを後押ししてくれる法律だといえよう。これを受けて当法人では、神奈川県 of CHO（健康経営）構想に逸早く賛同し、健康増進の重要性を唱えとともに、この理念を地域包括ケアシステムの土台づくりに役立てようと事業展開を図ってきた。未病センターの設置とそれを能動的なものとする“未病サロン（主張未病センター）”を市内各所に設置する試みは、その取り組みの一環でもある。

超高齢社会と対峙するにあたって、健康寿命を延ばすという行為が、現時点で最も有効な選択であるとするなら、それ相応の覚悟と心構えが必要となる。住み慣れた地域社会の中でどのように生きていくのか—という選択を住民の側に戻すことこそが、地域包括ケアシステムの本質だからである。どこかの時点で住民自らがそのことに“気づき”覚悟を決めなければならない—というわけだ。

このように「住民主体」の取り組みが期待されている中で、それこそ「住民主体の原則に則って」活動してきた社会福祉協議会が手を拱いているわけにはいかない。行政の取り組みを強力に後押しし、地域包括ケアシステムの構築に寄与したい—という強い“決意”が今も我々の活動を支えている。モデルとなる小地域を設定し、地域診断をおこなっているのも、その決意の表れである。はたして、我々は、これまでに 7 つの地域で地域診断をおこなってきたわけだが、“足”で把握する情報は当該地域の“強み”と“弱み”を公のものとする一方で、その解決策において

も、紋切り型であったり、先進事例の単なる模倣を許さなかった。地域社会の中には、高齢者の問題だけでなく、障害児者の問題、貧困、権利擁護、インフラの整備等、既存の制度や枠組みでは解決できない課題が複雑に絡み合っている。また、地域診断が、当該地域が持つ潜在能力の顕在化という以上に、そのプロセスにおいて地域の組織化に寄与することもわかった。今後このプロセスを第 2 層の協議体づくりに役立てたいとも考えている。そのためには、地域診断を住民参加で実施するための工夫も求められよう。そう、決して“押し付け”ではない地域住民による地域住民のための「地域包括ケアシステム」を構築するために…。

対象地域

今回調査するのは、三崎地区内の東岡区。東岡区は、東岡町、天神町と城山町の一部で構成され、700近い世帯が暮らす区である。隣接する区は、白石区、海外区、諸磯区、原区、西海上区、日の出区、諏訪区である。

区内には市役所、三崎小学校等の公的施設や、三浦市における京浜急行バスターミナルの一つである、バス停「三崎東岡」がある。バス通りの西側が東岡町・天神町、東側の城山町である。通り沿いには、スーパーマーケットや飲食店等の店舗や診療所等がある。

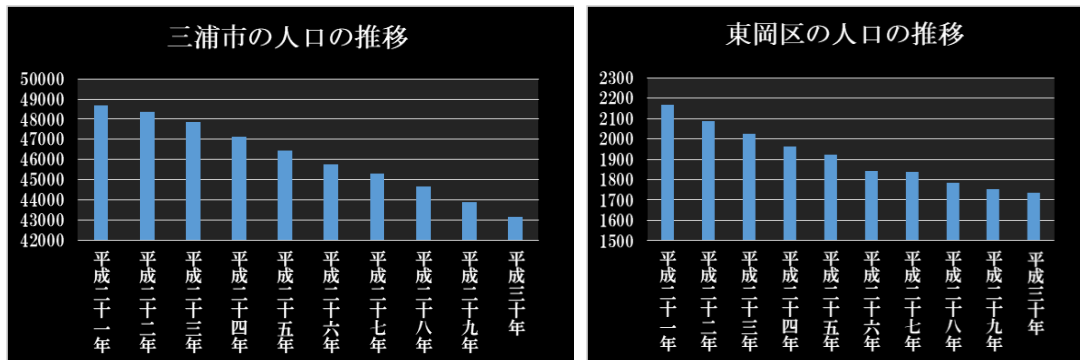
明治4～7年頃、三浦半島内で村を編成する動きがあったとき、東岡区の地域は「六合東岡村」「東岡村」等と呼ばれていた。大正10年、三崎町の20部落において区長が任命された際に「東岡区」となった。「三浦市区長会二十五年のあゆみ（昭和57年発行/三浦市区長会）」には、当時の区長鈴木廣氏は「明治から大正時代の初期に掛けて、我が町東岡は三崎の中心的役割の時であったような気がする。（中略）東岡は、他の町にないものが古くからあり、住宅地として発展する要素があったと思う。」と記している。「他の町にないもの」としては、馬車の発着場や異人館（別荘）、市役所庁舎、立派なレンガ造りの眼科等を挙げている。同書によると、昭和40年、市内で3番目となる「児童館」が開館し、児童の遊び場だけでなく各種会合の場としても活用することで、精力的に自治会活動を進めてきた歴史があるようだ。



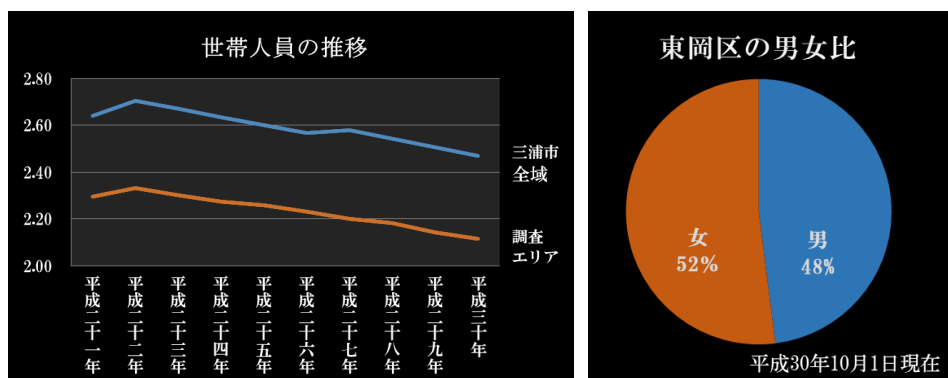
人口・世帯数の推移

東岡区は東岡町、天神町、城山町の一部で構成されている。区の世帯数としては 690 世帯となっているが、人口数としては区単位でのデータがなく、町単位になるため、ここでは 3 町の合計数を利用する。3 町の合計の世帯数 821 に対して、東岡区の世帯数は 690 で、3 町の 84% の人が東岡区民にあたる。

人口は 1736 人、世帯数は 821。(平成 30 年 10 月 1 日現在) 下グラフからもわかるように人口減少が続いている。三浦市全域の人口はここ 10 年で 11% の減、東岡区については、約 20% (432 人) の減となっている。つまり、東岡区の人口減少率は、三浦市全域の約 2 倍である。



東岡区の世帯人員の平均は 2.11 人(平成 30 年 10 月 1 日現在)で、10 年の間に約 13% 減少している。同期間において三浦市の世帯人員は約 5% 減少、世帯人員の推移を三浦市全域と比べると、2 倍以上の減少率である。高齢化と人口減少が続いていることから市全域と同様に今後も世帯人員の減少傾向は続くことが予想される。続いて人口の男女比であるが、三浦市全域の比率と近似している。



交通と安全

①公共交通機関

東岡区内にある京浜急行バスの停留所は、「三崎東岡」の 1 ヶ所で、三浦市内を走るバスの終発着及び停車の拠点となっている。上り方面は横須賀市民病院行き等も含め、1 時間に 10 本以上運行している時間帯が 6 つあるなど全体的に本数が多い。三浦海岸駅行は 1 時間あたり 3~4 本運行している。他に 1 日 10 本のみの油壺マリンパーク行きと 1 日 2 本のみの三浦市立病院行

きがある。下り方面の行き先には、三崎港、城ヶ島、通り矢、浜諸磯がある。

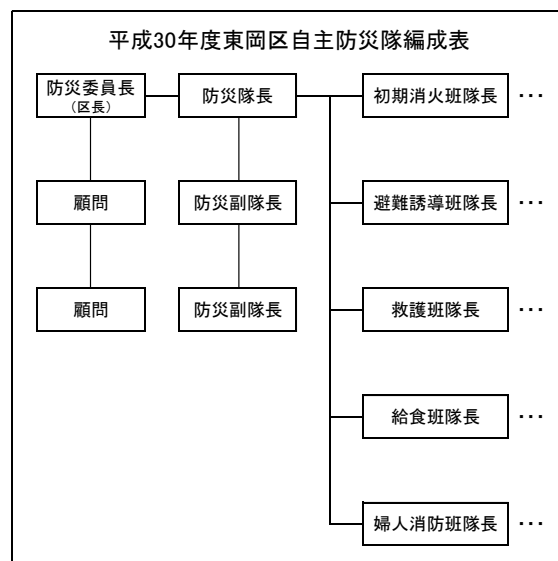
他に、公的機関による送迎バスの発着場がある。三浦市老人福祉保健センターの無料巡回バスは、「さかえ手芸店付近」が発着場である。市内3コースを巡るバスが全て通り、同センターの休館日である月曜日・祝日とバスの運行がない日曜日を除き、各コース午前・午後1本ずつ運行している。また、三浦市立病院の無料送迎バスは、「市役所第一駐車場(本館脇)」が発着場で、午前中に3本運行している。

また、2ヶ所のスーパーマーケットによる無料送迎バスがある。京急ストア三崎東岡店は区内にあり、店舗から近い住民は歩いて買い物に行くようだが、店舗から離れている住民やスーパーマーケットフジ三崎店に行きたい住民にとっては有効な移動手段となっているようだ。京急ストア三崎東岡店は「お買物無料送迎バス」という名称で、平日及び祝祭日に運行している。諸磯・白石方面を循環するルートの中に「矢島医院さん前」「出口工務店さん前」「三浦市役所さん」の3ヶ所の発着場が含まれている。1日7本(午前4回・午後3回)のバスが発着する。スーパーマーケットフジ三崎店は「フジふれあいバス」を年中無休で運行している。諸磯・白石方面を循環するルートの中に「矢島医院さん前」「出口工務店さん前」「三浦市役所下」「勤労市民センター前」の4ヶ所の発着所が含まれている。1日14本(午前9回・午後5回)のバスが発着する。

②防災・生活安全体制

東岡区は、区役員と有志による「東岡区自主防災隊」を組織している。区長が防災委員長を務めるほか、顧問2名、防災隊長1名、防災副隊長2名がいる。その下に初期消火班、避難誘導班、救護班、給食班、婦人消防班の各班があり、各班隊長以下約10名のメンバーがいる。(右図参照)

そのほかに、自主防災隊の組織「婦人消防隊」があり、現在約6名が登録している。婦人消防隊の操法競技会で県代表として全国大会に出場し、受賞した経験がある(詳細は団体ヒアリングに後述する)。



防災倉庫は、第1東岡防災庫がバーバー・ニシノ前、第2東岡防災庫が天神町広場にある。倉庫には、スコップやリヤカー、テントといった防災資材や、行事に使用する机やパイプ椅子等も保管してある。

また東岡区は、消防団の「第2分団」の管轄エリアになっており、東岡区のほか海南・西野・上橋区、宮城区、西浜区、白石区、海外区、尾上区において活動している。

また、災害時に開設される地区ごとの避難所として、東岡区は日の出区、海外区、尾上区、原区の一部とともに「旧三崎中学校」が指定されている。避難所の運営は各地域(区)から選出さ

れた委員と避難所となる施設の管理者及び市の職員で構成され、旧三崎中学校の避難所の場合は「城山避難所運営委員会」となっている。委員会の構成員は、平時から訓練をおこない、開設に備えることになっている。

教育環境の状況

東岡区の教育機関として、城山町に三崎小学校がある。同じく城山町にある三崎二葉保育園は、平成 31 年 4 月から「認定こども園（※）」となり、幼児教育も始まっている。

区内に中学校はなく、三崎町六合にある三崎中学校の学区となっている。平成 26 年に旧上原中学校と統合し移転するまでは、市役所隣りに三崎中学校があった。現在、旧三崎中学校の校舎は、市役所の分館となっている。

また、東岡区には区の役員や保健衛生員、青少年指導員、民生委員、子ども会で組織されている「東岡区青少年健全育成協議会」がある。主に、子ども会の取り組みや夏の納涼祭について話し合っている。

なお、子どもの遊び場としてだけではなく、区の会合の場としても活用されてきた東岡児童館は、平成 25 年 3 月をもって廃止となっている。

※認定こども園とは、教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設である。保護者が働いている・いないにかかわらず利用することができる。

経済・産業・医療

東岡区は、古くから三浦市の中心地として栄え、住宅地として発展してきたことから、飲食店や小売店が多くあった。最近は人口減少や高齢化などの影響から閉店する店舗も増え、小売業に限ると平成 24 年に東岡町・天神町・城山町で合計 35 ヶ所あった事業所が、平成 28 年には 20 ヶ所に減っている。しかし、現在でも金融関係、医療・福祉関係施設等を含めると 50 ヶ所以上の事業所がある。小売店では、衣料品店、畳店、仏具店、手芸店等があり、飲食店や弁当販売店や理美容店もある。小売店が加盟する商店会としては、おおむね東岡バス停付近を境にして、三崎下町方面の「西銀座通り商和会」と栄町方面の「岬陽商店街」の 2 つがある。ほかにタクシー会社、証券会社、バスの営業所、銭湯がある。医療関係施設は、内科、整形外科、歯科等 3 つの診療所と薬局、マッサージ店がある。福祉関係施設では、認知症対応のグループホームがある。また公共施設では、勤労市民センターと市役所がある。各事業所については 24 頁より詳述する。

仮説と持続可能な地域社会の構築に向けたビジョン

以上のような統計的データをもとに、調査エリアの都市像について次のような仮説を立てた。

「市と共に発展し、多くの人が移り住んだことで、住宅や商業施設が増えてきた地域である。

調査開始前に集まった住民有志からは『3つの地域があることから、区全体のつながりは薄い。』

『近所に三崎の下町ほどの濃いつながりはない。』『老人会がなくなって8年が経つ。』等の意見が聞かれた。かつては自治会や区内の団体による活発な活動があったが、現在は高齢化に伴い地域の活動団体が減ったことで、住民間のつながりが薄れつつある— と、住民有志は課題視している。

しかし、入り組んだ路地にたくさんの住宅が連なる土地柄や、活発な自治会活動があった歴史から、東岡区ならではのつながりが保たれている地域なのではないかと推察する。このつながりを再評価することが、住民有志が挙げる課題解決の第一歩になるのではないか。」

果たして、この仮説を立証するために我々は、地域踏査（フィールドワーク）を実施することにした。主にその任にあたったのは、生活支援コーディネーターの齋田と東岡区の住民有志である。生活支援コーディネーターの齋田が作業を主導した。

“仮説”に基づき、調査エリアにおいて、“互助”を範疇とする「生活支援サービス」の構築に向けて、下記のとおり、1つのビジョンを共有するに至る。目的は「住み慣れた地域社会の中で『誰もが』『いつまでも』『安心して』生活できるようにすること」にある。

■■■ビジョン■■■

連綿と築き上げてきた“支え合いの仕組み”を次代に引き継ぎ、住み慣れた地域社会の中で、誰もが安心してこれまでの生活を“継続”できるよう“ちょっとした困りごと”なら相互に助け合えるような“まちづくり”をめざす！

このビジョンの具現化を目途に、仮説の立証を試み、そこに乖離^{かいり}があるとするなら、逐次それに修正を加え、新たな、しかし、現実的な“都市像”を形成したいと考えた。

ゆえに、四則演算で求められるような量的データ（統計的）のみならず、足で稼ぐ質的データを重視することにした。当然そこには、地域住民に対するヒアリングや住民有志の集まりで得られた情報も加味されることになり、結果的に“人間的”地域診断を可能にするのではないかとの結論を得たからである。

東岡区の調査結果

地域踏査を実践するにあたって留意したのは、調査エリアのネガティブな部分を顕在化することに優先して、むしろ、その“強み”をより多く発見することに比重を置いたことにある。そこで「まちで発見した“あれこれ”沢山見つけよう！このまちの“強み（ストレングス）”」という惹句のもとに作業を進めた。

はたして、東岡区では、どのような“発見”を得ることができたのであろうか？

なおこの地域診断書には、平成 30 年 12 月～平成 31 年 3 月時点の調査内容を掲載している。

直撃！キーマンに聞いた



東岡区長
西野 佐賀子さん

東岡町で主人とバーバーニシノを経営している。

今回、前渡邊区長の急逝があり、役員から区長就任を打診された。とても悩んだが、区の事情を踏まえ、家族と相談した結果、その任を引き受けることにした。区長の仕事は大変だが、役員と役割分担して、仕事を整理することで、次の代にきちんと渡せるようにしたいと思っている。

その他に区では、婦人消防隊隊長を約 20 年担当している。また、今までに子ども会指導員・児童会館指導員・青少年指導員を歴任していた。また、以前からボランティア仲間と共に活動しているミニ・バレーボール連合会では、市が夏休みに開催していた子どものスポーツ大会を引き継ぎ、「三浦市少女・少年ミニバレーボール大会」として開催している（少年の参加は昨年から。）

東岡区は高齢者が多く、孤独死が増えている。そういう人を 1 人でも減らしたいという思いがある。そのためにも、近所で「顔の見える関係」をつくり、大切にしていきたい。同じ区に住むみんなで力を合わせて、安心・安全で住みよい地域をつくっていきたい。

区の独自の活動として、東岡区青少年健全育成協議会や、役員 OB の交流会、婦人消防隊をおこなっている。老人会は 8 年前に解散したが、いま再結成の動きが出ている。防災活動では、東岡区自主防災隊を編成している。今後はこれに加えて、隣組での防災活動にも重点を置いていきたいと考えている。

それ以外にも次頁の表のとおり、これだけの活動をやっているが、「区民に取り組みが知られていない」という声もある。区の理事会で話し合い、より多くの区民に行事に参加してもらえるよう、掲示板にポスターを掲示するなどして呼び掛けを始めたところだ。

表 西野区長が紹介する「東岡区の活動」

天神町公園桜まつり ○天神町公園において、毎年3月末に開催している。 ○焼き鳥、味噌おでん、焼きそば、飲み物等の出店を区の役員が担当する。 ○平成30年度は、ミニバザーや未病センター計測のほか、福祉事業所の参加もあり、よかった。今後も続けていきたい。	
納涼祭 ○天神町公園において、毎年7月末に開催している。 ○桜まつり同様、出店を区の役員が担当する。 ○子ども会が東岡のお神輿を担ぐ、とてもにぎやかなお祭り。	 

城辺稲荷の餅つき

○毎年2月11日、旧東岡児童会館前で開催している。

○子ども会主体だった行事を、平成30年度は「参加費250円で、区民なら誰でも参加OK」としたところ、例年より盛況で、臼一つ分多く餅をつくことになった。

**草刈・清掃**

○東岡城辺稲荷社で月2回（1・15日）の清掃をおこなっている。

○区内3つの公園（天神町公園、東岡公園、児童公園）において、1ヶ所あたり年3～5回の草刈と清掃をおこなっている。

○今までは区の役員が実施していたが、区民から「市役所の職員が掃除している」と誤解されたこともあり、区民にも参加を呼び掛けることにした。まずは掲示板で周知し、5月に天神町児童公園で清掃をおこないたい。

民生委員の思い

東岡区民生委員
米田 ふさ子さん

●地区の様子・東岡区に住んでいて感じる事

- ・下町で子ども・青春時代を過ごし、天神町に住んで43年になる。道・交通・買い物・風当たり…すべて地理的に言うことなし！
- ・近所付き合いは、あまり強くないと思う。

●民生委員として活動していてよかったこと

- ・私の家が町内のはじっこにあり、民生委員として受け持つ地域とは場所が離れていたため、担当する住民の皆さんと触れ合うことが全くなかった。そのため、はじめのうちは皆さんの顔を覚えること、逆に顔を覚えていただくことが少し大変だった。しかし、東日本大震災という、はじめての大きな出来事を通して、皆さんとお近づきできたと思う。

- ・とっても嬉しかったことはたくさんある。なかなか喋ってくれない方が、実は私の連絡先を書いた紙をお財布に入れているとわかったこと。「いざというときはあんたに頼むからね。」「あんたが子どもだったらよかったのに。」という言葉が掛けていただいたり、私の夫に「奥さんに世話になってます。」とっていただいたことなど。
- ・民生委員として、いろいろ勉強する場があるので、それが得をしたなと思っている。

●民生委員として活動していて困っていること

- ・訪問のときに話が終わらず、1軒1軒が長時間になり、理想どおりに活動できないこと。私も話が好きなもので、どうしても長くなってしまう。

●地域で「困っていそう」「こんな手助けがあったらいいな」と思うこと

- ・今までは独居高齢者に対して目を向けていた。しかし、家族で共に暮らしていても、高齢の両親と働き盛りのお子さんの家庭では日中の介護ができないなど大変だと思う事例がある。そういった家庭の支援が見逃されていると思う。ご近所の方々と一緒に見守っていかたいと思う。

●これからやってみたいこと

- ・老人会を立ち上げること。会員間の楽しみだけに止まらず、会員もそうでもない方も、少しずつでも力を貸したり借りたりできる活動をおこなうことで、社会と住民である自分たちをつなぎたい。
- ・今後、有償ボランティアによる助け合いの活動も進めていきたい。

民生委員の思い



東岡区民生委員
平野 まさみさん

●地区の様子・東岡区に住んでいて感じる事

- ・この地区は、地元出身の方と三浦に越してきた方が暮らしているので、それぞれ生活水準の違う方が多いと感じる。
- ・日当たりがよく、生活するにはいいところ。

●民生委員として活動していてよかったこと

- ・みなさんが明るく迎えてくれて嬉しい。

●民生委員として活動していて困っていること

- ・個別訪問は、つい長い時間になるので、気をつけるようにしている。
- ・生活保護の方への対応が多く大変。

●地域で「困っていそう」「こんな手助けがあったらいいな」と思うこと

- ・私の担当地域は、高低差がある坂が多い。若いうちにはいいのだが、足を痛めると、歩いて買い物に行くことが大変になる。
- ・スーパーマーケットフジ三崎店の送迎バスが近くまで通るようになり、高齢者が喜んでい

民生委員の思い



東岡区民生委員
脇谷 和之さん

●地区の様子・東岡区に住んでいて感じる事

- ・担当地区に若い世代や子どもが少ない。一方で、高齢者と独居老人が増えている。
- ・人とのつながりがある。

●民生委員として活動していてよかったこと

- ・地域の方々と意思の疎通ができてきたこと。
- ・2年前に区の理事を辞めたとき、数人の独居高齢者に「民生委員は辞めないでくれてよかった。」「これからも頼む。」といわれ、嬉しかった。

●民生委員として活動していて困っていること

- ・認知症の人への対応と、そのご近所から寄せられる苦情への対応。例えば「火事が心配」などの苦情がある。

●地域で「困っていそう」「こんな手助けがあったらいいな」と思うこと

- ・シルバー人材センターに頼むほどではないような、ちょっとしたことができない。自分が手伝ってあげてもいいと思うが、お礼に来られることもあるので困る。
- ・区でも、日常的な手助けが必要な人の対応を考えている。

●これからやってみたいこと

- ・民生委員を務めて3期目になるが、まだまだ元気。ボランティア精神を忘れず活動が続けて、もっと個々人の考えを聞き、活動を継続したい。

民生委員の思い

東岡区民生委員
齋藤 喜美さん

●地区の様子・東岡区に住んでいて感じる事

- ・道路には蜘蛛の巣のように亀裂が走り、デコボコしている。自分が担当する地区にお住まいの方が、つまずいて転んで顔を怪我されてしまった。
- ・掲示板をどうにかしてほしい。画鋲で止めるようになっているが、板が硬く画鋲が刺さりづらく大変だ。

●民生委員として活動していてよかったこと

- ・活動を通じて、いろいろな方と知り合えてよかった。

●民生委員として活動していて困っていること

- ・平日の日中は仕事をしているため、活動することが難しい。

民生委員の思い

東岡区民生委員
埴 秀夫さん

●地区の様子・東岡区に住んでいて感じる事

- ・新しく来る人に対して、親切に対応できている地域だと思う。

●民生委員として活動していて困っていること

- ・高齢者、特に一人暮らしの高齢者に対して、三浦市社会福祉協議会のおこなっていることが見えてこない。三崎地区担当の包括支援センターの動きが遅い。

●地域で「困っていそう」「こんな手助けがあったらいいな」と思うこと

- ・見守り支援と地域ケア包括システムの充実。

東岡区における地域踏査の概要

ソフト面（人々の暮らし、助け合いの仕組み等） 住民ヒアリング

調査は、後述する「東岡区支え合いの地域づくりの会」の住民有志と共に取り組んだ。各戸を訪問し、ヒアリングシート（右図）に基づき、聞き取りをおこなった。

質問項目は、以下のとおりである。「①東岡区のいいところってどんなところですか、②地域住民間の支え合いでできていることはありますか、③生活で困っていること・こんな手助けがあったらいいなと思うことはありますか、④地域の活動に参加する機会がありますか・ご近所で集まる場所や機会がありますか、⑤これから東岡区はどんな地域になってほしいですか、⑥老人会などの地域の集まりがあってほしいですか。」

伺った全ての意見を、まず「①地域の強み」「②地域の弱み・困りごと」、「③困っていない・今のままでいい」「④今後の希望・手伝いたいこと」の4種類に分類した。そこから更に共通する項目ごとに分け、主だった意見を以下のように抽出した。括弧内の数字は、類似していたものを含めた各項目の意見の総数である。

支え合いの地域づくりに向けた地域診断・ヒアリングシート（個人宅用）	
調査した日にち	平成 年 月 日
調査したメンバー（	）
調査した地区（	）
性別（男・女）	
年代（10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代・90代・100代）	
・東岡区のいいところってどんなところですか ・地域住民間の支え合いでできていることはありますか ・生活で困っていること・こんな手助けがあったらいいなと思うことはありますか ・地域の活動に参加する機会がありますか・ご近所で集まる場所や機会がありますか ・これから東岡区はどんな地域になってほしいですか ・老人会などの地域の集まりがあってほしいですか ・地域のための活動に参加してみたいですか	

①地域の強み

近所 付き合い (29)	・ここは昔からの土地なので、周りは皆、親戚のような付き合いがある。 ・近所の人々の支えがあり、安心感がある。 ・若い人ともいい関係ができている。 ・いいところは、地域のつながりがあるところ。 ・近所付き合いは以前住んでいた東京に比べ、格段に濃密だ。 ・この辺りには、地域の支え合いがあると思う。 ・子どもの世代につながりがある。 ・この辺りは、みんないい人だから住みやすい。 ・近所付き合いの中で、優しさを感じる人が多い。
声掛け (22)	・顔見知りの人が多く、会えば「元気？」と声を掛ける。 ・支え合いはある。自然と声を掛け合っている。 ・組の仲がよく、声掛けが多い。 ・犬の散歩で挨拶したりする。 ・いいところは、近所の人々が声を掛けてくれるところ。 ・子どもの通学時に挨拶をしたり、顔馴染みになった人には声を掛けてい

	る。 ・隣近所でゴミの収集等、声掛けし合っている。
見守り おすそ分け (23)	・近所の方や、民生委員の見守り・声掛けがある。 ・野菜をあげたり、声を掛けたりしている。 ・日頃から困ったことがあると助け合っている。夫の急病時に留守を見てもらった等。 ・親が不在にしている間、ご近所の子どもの様子を見に行くことがある。 ・新聞が溜まってないかと気にし合ったり、心配な人にはおむすびを持って行ったりしている。 ・調味料を借りたり、作ったものを届けたりしている。
買い物 送迎 (5)	・近所の高齢のご夫婦が、買い物の荷物を重そうに持って歩いているので、見掛けたときは荷物を持ってあげる。 ・重い物を買うとき、お隣の方が手伝ってくれる。お礼を少し用意してお願している。 ・ご近所は親切。買い物に行ってくれたりする。 ・買い物では、ご近所で個人的に車を出してくださる方がいる。 ・スーパーで顔見知りになると、車に乗せてくれて助かっている。
草刈 掃除 交流 (8)	・空き家の竹等の始末を、近所の人と一緒にしている。虫が多いので、空き家の草刈は必要。 ・草刈を近所の人やってくれる。 ・近所の一人暮らしの方の手助けとして、家の回りの掃除をしている。 ・ご近所のごみのある家を、一度地域できれいに整理したことがある。 ・以前は近所の人や声掛けで BBQ をしていた。 ・元気なおじさん、おばさんが多い。 ・今後は自分たちを見てもらえるように頼んでいる。
区の活動 (22)	・自治会がいろいろ張り切ってやってくれている。区長が頑張ってくれている。 ・いいところは、区がまとまりつつあるところ。 ・母親クラブの頃からのつながりがある。 ・区で古着回収の係をやっているが、他にも力仕事等があれば協力している。 ・地域の活動に参加している。 ・地域の活動は、すでに長年やっている。 ・夏の納涼祭があり、子どもたちも手伝っている。 ・地域の活動には、花見の会に参加した。そのときに知り合った人と挨拶ができるようになった。

子ども会 (5)	・子ども会がある。 ・役員のなり手がなくて困ることもあったが、次の世代に引き継ぐことができている。 ・城山には子どもが多く、今は天神町の子ども会と合同で活動している。 ・子ども会の関係で助けられている。 ・子どもたちに目が届く地域だと思う。 ・東岡区のいいところは、子ども会を通じて、地区の人や子ども会の仲間に助けてもらっていること。 ・子どものソフトボールや野球の行事はなくなってしまったが、ミニバレーのスポーツ大会を西野さんがつくってくれた。
民生委員 (12)	・地域の支え合いはないけど、民生委員が訪ねて来てくれる。 ・民生委員のおかげで、母の介護認定をしてもらい、ベッドを借りることができた。 ・困ったときには、民生委員に声を掛ければ助けてくれるので、心強い。 ・民生委員との付き合いも良好で、心の支えになっている。 ・一人暮らしの人も多いが、民生委員さんが回ってくれている。
環境 気候 (38)	・市役所やスーパー、コンビニもあり、暮らしやすい。 ・バス停のある大通りが近いため、暗いときでも、子どももさっと帰れる。 ・スーパー、小学校、市立病院も近くていい。 ・駅にもバスですぐに行ける。 ・暖かくて住みやすい。 ・いいところは、のんびりしているところ。東岡が好き。 ・東岡は、近所の公園に子どもが集まっていて、活気があっていい。 ・緑があり、空気がいい等、住環境がいいところ。 ・年寄りには住みやすく、静かでよい。
家族 自助 (42)	・90代の高齢夫婦の息子として、1日1回様子を見に来ている。 ・娘が週2回は来てくれるので、特に心配はない。 ・孫が近くに住んでいて、ひ孫を連れて来てくれる。 ・近所に高齢者はいるが、お子さんが時々見えているので安心している。 ・一人暮らしだが、体操教室やカラオケに行っている。 ・一人暮らしなので、社会福祉協議会に連絡を取り、今後について相談しているところ。 ・元気に過ごしている。転ばないように気をつけている。 ・飯島医院の体操に通っている。

②地域の弱み・困りごと

近所 付き合いが ない (29)	・近所付き合いは、ほとんどない。 ・隣組はあまり親しくない。 ・地域の支え合いはない。 ・近頃、何でも「個人情報保護」といわれる。近所の人の情報が入らない。 ・ご近所で仲が悪い訳ではないが、話をすることは少ない。 ・子どもが成長してしまうと、近所の人との付き合いがなくなり、現在の様子がわからない。 ・隣組の軒数が少なくなり、住んでいても組に入らない人もいる。結束力がない。 ・組の集金も年 1 回で済むようになったので、他のときに訪ねるのも億劫。 ・回覧板はポストに入れるだけ。
一人暮らし (20)	・近所に一人暮らしの人が多い。 ・一人暮らしの人が多く、心配な人もいる。 ・近くに住む一人暮らしの方が心配。気になる行動がある。 ・一人暮らしの人は少ないが、日中独居の人は多いと思う。 ・新しいことが覚えられない。携帯電話の使い方等を教えてくれる家族がそばにいない。 ・一人暮らしなので、頼る人がいない。 ・一人で買い物に行くのがやや辛い。 ・困っていることはあまり感じないが、一人暮らしで周りとの付き合いもないので、災害時が不安。
交流がない 話し相手が いない (10)	・地域の集まりがない。 ・今はないが、昔はお茶飲み会があり楽しかった。 ・話し相手は少ない。
区の活動に 参加してい ない (21)	・地域の活動は苦手。 ・地域の活動に参加する機会はない。 ・地域の集まりには、お誘いもないので参加していない。 ・昔子どもが小さな頃はお祭りに行っていたが、最近は行っていない。 ・今は仕事をしているから、区の集まりには参加できない。 ・介護しているので、地域の活動にはなかなか参加できない。 ・片目が見えなくて迷惑を掛けてしまうので、地域の活動に参加することはできない。 ・地域の活動に参加するにも、得意なことがないから、ためらってしまう。

区の行事 (12)	・区の行事が少ない。 ・区の集まりに参加する顔ぶれが固定化している。 ・今後の東岡区は、役員のなり手がなくて心配。 ・新しい人が区の役員になるようになってから、区で何をやっているのかわからない。 ・地域のお祭りはいらない。
子ども会 (4)	・以前は東岡町、城山町、天神町のそれぞれに子ども会があったが、城山の子ども会は役員のなり手がいないため、なくなってしまった。 ・昔の方が、子ども会が活発だった。 ・昔子ども会に関わっていた頃は、夏の夜のパトロールに参加した。今はそういう機会が減っている。 ・子ども会として市に所属していると、自分たちの子ども会の活動以外にも市全体の活動に参加しないといけなく、大変だった。そのために他の区では市に所属せずに活動している会もある。 ・以前は小学校入学のタイミングで子ども会の加入の呼び掛けに地域を回っていた。今はしていないので、若い世代のお母さんたちとの接点がない。困っていることもあるのではないかなと思う。
老人会 (6)	・今はデイサービス等があるから、老人会はなくてもいいのではないかな。 ・老人会等の地域の集まりがほしいとは思わない。 ・役員の担い手がなくなったことで、老人会もなくなった。
移動 買い物 (8)	・引っ越してきて5、6年になるが、交通渋滞が多く、不便。 ・車がないと遠出ができないので困る。 ・通院するのに少し遠い。病院行きのバスの本数がもう少し多ければ助かる。 ・中学校が統合されて遠くなったので、家族が車で送らないといけなくともある。 ・通院にはタクシーを利用している。 ・家の周りが坂や階段なので、買い物が一番困る。スーパーまで行くのも大変。 ・近所の人に、いづみタクシーで買い物に行っている人もいた。 ・目的に応じて横須賀や横浜まで買い物に行っているが、自分がもう少し衰えたら、買い物難民になるかもしれない。
ゴミ出し (4)	・ごみステーションまで坂道なので、行くのが大変。ご近所の人でもカートを引きながらごみステーションまで行っていて、大変そう。 ・ご近所のゴミ出しの手伝いをしているとき、ゴミを入れていた箱の中に蜂の巣ができていて、蜂に刺されたことがある。

	・ごみステーションの掃除当番は、高齢者にとって大変。結果的に、ごみステーションも汚くなってしまう。
--	---

商店 (5)	・どうやったら地域が活気づくのか、わからない。商店がどんどんなくなっていく。電気屋や薬局、文具店や、食事ができる店もない。 ・今は商店が減ってきている。
------------------	---

環境 (8)	・一本中の道に入ると、外灯が少ない。暗いのでお年寄りも足元が危ないと思う。 ・諸磯区は外灯があり明るい、東岡は暗い。数年前には「人に後をつけられた」と、家に駆け込んできた人がいた。 ・雨の日に遊べる場として活用していた青少年会館がなくなってしまった。 ・市の防災無線の放送が聞こえない。 ・高齢者にとっては、大通りに出るまでに階段や坂があり大変。 ・東岡町の中通りについて、特に朝は車の運転に気をつけてほしい。
------------------	--

空き家 (7)	・空き家が増えている。 ・皆さん歳をとって亡くなったり、引っ越したりして、近所は空き家や空き地になってしまった。 ・空き地が手入れされていないので、草や枝木の手入れ等手伝っているが、年に1回でも所有者がやってくれるといいのと思う。
-------------------	---

人がいない (15)	・子どもが少ない。 ・小学生が減ってきている。 ・子どもを通じて話をするようなことはなくなった。 ・高齢化でどうなるのか心配。 ・若い人は仕事がないので、三浦で暮らしたくても仕事先まで通いきれず、出て行ってしまう。 ・老人ばかりになってしまった。
----------------------	--

③困っていない・今のままでいい

困っていない (23)	・ご近所で、取り立てて困っていることは見受けられない。 ・自分は特に困っていることはない。 ・不便は感じていない。 ・買い物、通院等困っていない。 ・ゴミ出しはキッチリしていて、特に問題ない。 ・まだ車に乗ることができるし、夫がいるから特に困っていない。
-----------------------	--

今のまま でいい (9)	・ 今後の東岡区については、このままでいいと思う。 ・ 町は平和で、不足はあまり感じていない。 ・ 他の地域のことがわからないので、今後の希望は特にない。 ・ 地域の集まりは特にないが、必要は感じていない。 ・ 今は、隣組で見守りが必要そうな人はいない。
--------------------	---

④今後の希望・手伝いたいこと

ご近所 付き合い (7)	・ ご近所のふれあいが一番大切。 ・ 今後の東岡区は、みんなで気持ちよく声掛けできるようにしたい。 ・ 今後は、若い人がいないので、年寄り同士お互いに助け合う必要がある。 ・ 組の中の付き合いがもっと深まるといいと思う。
--------------------	---

手伝い たいこと (11)	・ 声がかかればいつでも OK。 ・ 助け合いの会ができれば手伝うよ！ ・ 支え合いの会に参加してみたい。 ・ 花見のとき等に、何か手伝えたらと思っている。 ・ 牛乳パックの活用が得意。老人会等で教えることができる。 ・ 地域で草取りの活動があれば参加したい。
---------------------	---

有償の 助け合い (2)	・ 有料でもいいから、ちょっとした仕事をやってくれるところがあるといい。 ・ 区の中にそういう組織があるといいな。
--------------------	--

交流の 機会 (18)	・ 一人きりで籠もった人をつくらない、家から引き出すようにしていくことが必要。 ・ ちょっとしたサロンがあったらいい。尾上区等にもあると聞いている。交代で手伝えればいいが、場所がない。 ・ 近所で集まる機会があったら、参加したい。 ・ 老人会に限らず、何かしらの集まりがあれば上等。 ・ 以前は近所でゴザを敷いてお茶飲み会をしていた。今はないが、声がかかればいつでもやりたい。 ・ お茶でも飲みながらの集まりがあるといい。 ・ 学校の空き教室もあるようなので、活用できる。 ・ 元教員や好きなことがある人を中心に、学びの場があればいいと思う。 ・ 地域の集まりに、囲碁や将棋があったら行ってみたい。 ・ ちょっと体操や運動したいときに、区にそういう場があるといい。
-------------------	---

話し相手	・ 話し相手がほしいと思われる高齢者もいる。
------	--

見守り (3)	・今後、組で見守りがあるといいと思う。 ・ちょっとした留守のときに、介護が必要な家族を見てもらいたい。
区の活動 (6)	・若い人に役員に入ってもらいたい。 ・ドブの臭いがするので、地域で掃除等ができればいいのではないかな。 ・隣組の軒数が少なくなっている。「周りの組と話し合って合併するように」といわれたが、区で全体を見て調整してほしい。 ・地域の活動に参加したい。 ・今後、花見や盆踊りに参加してみたい。 ・地域の活動に、できるときは参加したい。
子ども会 (5)	・共働きで子ども会に入っていない人もいるので、そういう人たちとも交流があるといいと思う。 ・子ども会と区の役員さん達の間で、もっと交流を持ちたい。 ・子どもの遊ぶ場所がほしい。 ・小学校や子どもたちへの市の対応について。緑のおばさん等の日々の見守りが市の予算減でできなくなり、今はスクールガードの制度がある。自分もスクールガードの活動を始めたが、成り手が減ってきているとのこと。できる人が参加すればいいのに、と思う。行政は単発の行事しかやらないので、自発的に子どもたちのことを考える必要があると思う。
老人会 (11)	・老人会があると嬉しい。母は話好きなので、参加させたい。 ・老人会があれば話し合ったりしたい。 ・老人会がほしい。 ・会のような集まりはほしいが、老人会という名前はよくない。 ・老人会について、支えられるだけでなく、自分の力があるときに何かできたらと思っている。
移動 買い物 (4)	・タクシーに同乗できるシステムがあるといい。 ・本数が少なくてもいいから、通学バスがあると助かる。 ・市立病院にもバスで行けるといい。 ・自分の目で見えて買い物をしたいので、市でタクシー券等を出してくれたら、スーパーへの買い物や通院等に使いたい。1000円くらいの自己負担で行き来できれば、券を買っておいて使いたい。
ゴミ出し 空き家活用 環境 (6)	・誰かごみステーションを見てくれる人がいるといい。ステーション内のゴミを分別する等。 ・空き家を活用してほしい。西海上区で取り組んでいるようだ。 ・町、区をきれいにしていくことが大切。住んでいる人がどういう意識を持つかが重要だ。

自助 (7)	・今後も、元気に年をとっていきたい。 ・元気に暮らしていけたらいいと思っている。 ・緊急用に、お隣にも聞こえる笛を持ち歩いている。本当に必要なときに使いたい。
その他	・要介護者に対して、施設入所をさせたい家族と反対する親族の間に入ってくれる人がいると助かると感じている。 ・役員は年に1度社会福祉協議会の職員らを呼んで、区の要望を伝えるようにしたらいいのではないかな。 ・区として「困ったことがあれば、社会福祉協議会に相談を」と促進してはどうか。 ・三浦市は大きな産業がない。もっと活気のあるまちづくりができないかな。 ・三浦市にベーシック・インカム制度を導入してほしい。

東岡区における地域踏査の概要

ソフト面（人々の暮らし、助け合いの仕組み等） 店舗・会社等

東岡町	
1	公益財団法人三浦市シルバー人材センター 活動：平日（年末年始、祝祭日を除く） ○高齢者の社会参加を目的とした就業機会の提供をおこなう。 ○会員は、60 歳以上の男性 180 名、女性 50 名の合計 230 名。 ○公共機関、一般家庭、企業等の依頼を受けて、施設や公園・トイレの清掃、駐車場の管理、巡回バスの運転、お寺や幼稚園の掃除、植木の剪定や草取り、家具の移動等を請け負っている。 ○当センターには対応できないこともある。ご近所さんのサポートがあれば、暮らしやすくなる人いると思う。 ○地域のためにできることはあると思うが、具体的に何ができるかわからない。
	 
2	篠田表具内装店 営業：月～土曜日 ○内装工事 ○従業員は三浦市民が多い。 ○地域とのつながりがある。
	
3	（有）花岡新聞店 営業：平日・10～17 時（事務所） ○新聞販売業 ○従業員は三浦市民が多い。 ○利用者は 60～70 代が中心。 ○地域とのつながりがある。
	
4	湘南食料株式会社 営業：水・日曜日以外・7 時 30 分～16 時 30 分 ○こんにゃく、しらたき、ところてん卸、店頭販売 ○家族経営。 ○利用者は 30 代以上の人が多い。 ○回覧板には目を通してしている。 ○地域の困りごとについて。スーパー以外の地域の小売店が少ないので、買い物が大変。
	
5	ティールーム ジョイ 営業：カフェ 水・金～日曜日・11～17 時 スナック 月・水～土曜日・19～2 時 ○カフェ&スナック ○従業員は三浦市民。 ○地域を見ていると、高齢者の一人暮らしの方が心細く感じているのではないかなと思う。
	

6	伊勢清商店 営業：年中無休（元日除く）・7時30分～21時 ○酒・たばこ・切手・菓子・印紙・証紙の販売 ○家族経営。 ○子ども～高齢者まで利用する。 ○小学生が「今日も来たよ」と顔を見せに来てくれる。 ○地域の人に「お店を辞めないで」といわれる。	
7	美容室 pure 営業：火曜日以外・9～18時 ○美容一般 ○利用者は0～90代。60代前後が中心。 ○地域の困りごとについて。道路の凸凹が多く、歩きにくい。夜道が暗すぎる。	
8	渡辺建築 営業：8～18時 ○建築業 ○高齢者の利用が多い。 ○地域とのつながりについて。修理・修繕の依頼がたまにある程度。	
9	全治堂鍼灸院 営業：9～19時 ○鍼灸・マッサージ ○利用者は、0～100代。	
10	田中畳店 営業：不定期・9～18時 ○畳の製造・販売とインテリア商品の販売。 ○150年営業し、5代目になる。 ○利用者は、60代以上の人々が中心。若い人の生活スタイルは変わってしまった。 ○西銀座商店会会員 ○三浦市の畳組合に登録していたが、会員の高齢化に伴い、2019年3月に解散した。 ○地域の困りごとについて。一時困っている人がいたが、現在は施設入所されたため、解決している。	
11	矢車食堂 営業：木曜日以外・11～20時 ○食堂 ○従業員はパートを含めて9名。全員三浦市民。 ○幅広い人が利用する。 ○出前先や、来店されたお客様と交流する。 ○一人暮らしの方が多いため、1品～配達している。 引橋、松輪、城ヶ島にも届けている。 ○お客様の買い物を頼まれたとき、買って届けることもある。 ○旧三崎中の教室を、東岡区の交流スペースとして借りることはできないだろうか？	

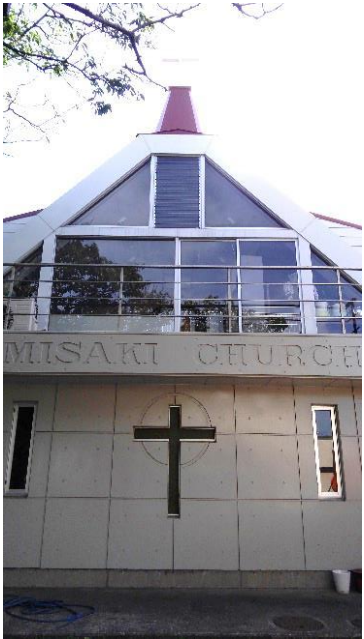
12	東岡薬局 営業：平日・9～18時30分、土曜日・9～13時 ○従業員は三浦市民が多い。 ○利用客は老若男女。	
13	飯島医院 診察：月～土曜日（土曜日は午前のみ） 診察時間：9～12時・15～18時30分 ○整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科・内科 ○スタッフは医師・看護師・リハビリスタッフ・事務員含め15名。内科医以外は全員三浦市民。 ○患者は、60～90代の高齢者が多い。 ○地域とのつながりは、週1回体操教室（39頁で詳述）を院内で開催していること。また、現在三浦市医師会の会長を務めている。医師会の公開講座や、市とタイアップした「みうらのお医者さんと話そう！」等の事業を実施している。 ○地域を見てみると、東岡区に限らず、一人暮らしの高齢者が多くなっていると感じる。家族と住んでいても日中は独居の人も多い。そのため、通院や買い物等日常のことができなくなってきている人が増えていて、手助けが必要だと思う。 ○東岡はスーパーや市役所等が近く、比較的恵まれていると思うが、それでも飲食店等地域のお店が減ってきていて、住民も困っている。 ○車の免許を返納した後の移動手段について、バス停が遠い人は通院等に困っているようだ。買い物に関しては、今後移動販売の需要も高まるだろう。 ○人口減少は仕方がないが、だからこそ交流を深めて、助け合っていないといけない。そのことを地域みんなで考えていくことが大切。 ○「地域のためにできること」は、地域医療を頑張っていく姿勢を示すこと。そのために、なるべく休まず診療している。 ○健康に関する相談を受け付け、できる限りのことをしていきたい。 ○医院長・医師会会長として、人口減少していても、元気な地域をつくっていく。老人会とも協力体制をつくっていきたい。	 飯島康司院長 
14	京急ストア三崎東岡店 営業：9～21時 ○スーパーマーケット ○従業員は40～50名で、ほとんどが三浦市民。 ○利用客は高齢者が多く、無料送迎バスの利用も多い。 ○地域とのつながりは特にない。	

	○地域の困りごとは特にない。 ○地域のために、できることがあればなにかしたい。 提案があればご相談ください。	
15	京浜急行バス株式会社 三崎営業所 営業：年中無休・9～17時 ○営業所の業務は、定期券、回数券の販売、案内業務。 ○従業員の半数が三浦市民。 ○利用客の年齢層は10～80代。 ○地域とのつながりとしては、バスに関する案内。わかりやすい案内、説明を心がけている。 ○高齢のお客が増えてきているので、今まで以上に丁寧なサービスが必要だと感じている。	
16	バーバーニシノ 営業：月曜日（月2回）と火曜日以外・7～18時30分 ○理容 ○家族経営 ○利用者は40～80代が多い。子どもは少ない。 ○地域とのつながりについて。区の役員をやっている。小学校との関わりがある。 ○地域の困りごとは、道が悪いこと。 ○地域のためにできそうなことについて。近所の声掛け、支え合い。挨拶は大事だと思う。	
17	カット&パーマ スタジオ 1815 営業：9～18時 ○一般総合美容 ○利用者は40～90代 ○地域とのつながりはある。 ○地域の困りごとは、地域の人々が気楽に集まれる場所がないこと。	
城山町		
18	旧三崎中学校 利用できる日時： 会合室 月～土曜日（祝日を除く）・9～21時 グラウンド 土・日曜日・祝日・9～18時 屋内運動場 年末年始以外・9～22時 ○文化またはスポーツ活動を目的とする者の要請に応じ、利用を認めているスペース ○三浦市役所（総務部財産管理課）が管理している。 ○会合、文化、スポーツまたはレクリエーション活動目的の利用料（1時間あたり） 会合室 200円、グラウンド 400円、屋内運動場 400円（目的外使用は別料金あり）。 ○使用の流れについて。財産管理課に登録後、Web上の「公共施設利用予約システム」から申し込む。抽選結果を受けてから、申請書を提出する。	

	○会合室は、サークル活動や会議の利用が多い。曜日や時間によって、利用希望が集中することがある。	
19	市民交流スペース（三浦市役所第2分館1階・旧三崎中学校） 利用できる日時：平日・9～15時 ○ボランティア等各種市民団体の活動を支援するためのスペース ○三浦市役所（市民部市民協働課）が管理している。 ○活動団体の情報提供・発信、ミーティングや軽作業の場として、利用できる。コピー機（有料）が1台ある。 ○予約なしで利用できる。その日の利用状況は、市民協働課に問い合わせてもらえば回答できる。 ○主に、趣味やボランティア活動をおこなう団体・個人や区役員が利用している。 ○毎週水曜日には囲碁将棋サークルが利用している。 ○「区の会館がなくて困っている」と聞くこともある。 ○令和元年6月9日には、引橋に三浦市民交流センターも開設する。	
20	ハイカラ亭 営業：月～土曜日・10時30分～14時 ○弁当屋 ○創業して25年くらい。お弁当製造とお米の販売をしている。 ○弁当の種類は、どんぶり類や麺類も含め100種類以上。お肉の味付けだけでもいろいろある。ご飯の盛りは多め。 ○下町や城ヶ島の市場関係に配達をしている。店頭の利用客は市役所職員や職人さんが多い。 ○従業員は、3名とも三浦市民。 ○地域を見ていて困っていそうだと思うことは特別ないが、なじみの客が亡くなったりして、減ってきて寂しい。 ○地域には高齢者が多い。 ○「夕飯のご飯が足りない。」とご飯だけ買いに来る地域住民もいる。	
21	八百重商店 営業：月～土曜日・9～18時 ○八百屋 ○家族経営。 ○利用者は50～70代が多い。 ○地域を見てみると、信号のない横断歩道に歩行者がいるときに、止まる車が少なすぎる。	

22	篠田佛具店 営業：木曜日以外・9～19時 ○仏具店 ○家族経営。 ○幅広い年代の人が利用する。 ○西銀座商店会会員。 ○地域の困りごとについて。三浦市に人口が増えて空き家がなくなり、若い人が増えることを願っている。 ○笑顔で挨拶できる地域にしたい。	
23	あわじや 営業：水曜日以外・18～24時 ○居酒屋 ○従業員（アルバイト）は三浦市民。 ○利用者は、20～70代。 ○地域とのつながりはある。	
24	ラーメンあじ平 営業：火曜日以外・11～20時30分 ○ラーメン屋 ○20年以上、夫婦で営業している。 ○1階が駐車場で、外階段を上った2階が店舗。 ○以前は、三浦で働く若い人も多く活気があったが、今は若者がいない。 ○地域の集まりで、お店に来てくれるのは構わない。	
25	さかえ手芸店 営業：お店 9～18時 教室 9～22時 ○手芸店、総合文化教室 ○利用者は30～70代。子ども向けの茶道教室もあるが、今は子どもの利用はない。 ○教室は、手編み科、手工芸科、組紐科、着付け科、子ども茶道、華道、茶道がある（詳しくは店舗にある講座案内に記載あり）。科によって、午前・午後・夜間の部があり、仕事後に通う人もいる。 ○手工芸をしながら、楽しくおしゃべりしている。 ○10名くらい入れる広さがあるので、地域の交流の場としても、今後協力できるのではないかと考えている。	

26	有限会社 三浦電気商会城山店 営業：水・日曜日以外・10～18時 ○家電商品の小売店 ○昨年創業 60 周年を迎えた。創業当初は城山店が本店だったが、現在は三崎口店を本店としている。 ○役員、従業員、パートタイマー全員が三浦市民。 ○利用客は小学生からシニアまで来店するが、多い年齢層は 40 代以上。 ○地域とのつながりとしては、家族代々ご愛顧いただいているお客様も多く、まちの電気屋さんの役割の大切さを強く感じている。 ○独居の高齢者から、電気以外での困りごとの相談を受けることがある。地域のネットワークで解決できるようになるといいと思う。 ○店舗の前が小中学生の通学路になっているので、防犯のお手伝い等ができると思う。	
27	三浦城山郵便局 営業： 窓 口…平日 9～17 時 ATM…平日 9～17 時 30 分 土曜日 9～12 時 30 分 ○従業員は 5 名のうち、三浦市民は 2 名。 ○利用者の年齢層は幅広い。 ○地域の様々な行事にお邪魔させていただいている。 ○子ども 110 番の駆け込み所になっている。 ○絵手紙作品の展示をおこなっている。 ○地域のためにできそうなことについて。声を掛けていただければ協力できる。	
28	(有) 木村屋 営業：木曜日以外・8～17 時 ○和菓子屋 ○従業員は三浦市民が多い。 ○利用者は 30～90 代。 ○地域とのつながりがある。	
29	太陽サイサングラス (株) 営業：平日・8 時 30 分～19 時 (日によって異なる) ○LP ガス小売販売 ○従業員は三浦市民が多い。 ○利用者は 20～80 代。 ○地域とのつながりがある。	
30	日本キリスト教団 三崎教会 礼拝：日曜日・10 時 30 分～12 時 ○日曜日の礼拝を中心に活動している。 ○礼拝には、市内や三浦半島全域から 2～30 名くらいの人がある。男女比は 3：7 で、中高年の女性が多い。保育園の園児や保護者もいる。	

	○日曜学校として、子ども達の礼拝がある。 ○日曜日の午後は、季節に合わせて様々な催しがある。お花見、夏のデイキャンプ、保育園と合同のバザー、クリスマス会、夜の合唱会等。催しのときは80名以上の人が集まる。 ○催しによって、子どもや保護者、教会の婦人会が活動する。 地域の困りごとについて ○地域には一人暮らしの高齢者が増え、日常生活の手伝いや買い物、通院の送迎、市役所や郵便局等への付き添い等で困っている様子が伺える。 ○礼拝者からの相談も多い。生活上のこと、家族や自身の病気のこと、精神疾患を持つ方の相談等。 ○ハンディのある人達の交流も地域で大切であり、地域で役に立つために教会や園が存在していると考えている。 ○地域に対して、住民間の交流会や催し、バザーの企画・開催等ができる。 ○平日の夜等に、保護者が会合を開いている。教会を地域活動の場に提供しているので、地域住民の利用を歓迎している。 ○地域の活動力が弱まってきている現代は、子ども、高齢者、障害者に対して、地域のつながりを保っていくことができるか、子ども会、老人会へどう援助できるのか、区のあり方が問われている。教会、保育園として、東岡区との連携を強くしていきたい。	
31	三崎二葉保育園(社会福祉法人三崎二葉会) 開所：平日・7～19時、土曜日・7～16時 ○平成31年4月から認定こども園になった。幼児の保育と教育をおこなっている。認定こども園になったことで、利用希望者が更に増えた。 ○定員80名。現在の利用者の男女比は、半々くらい。 ○プロテスタント・キリスト教に基づき、一人ひとりがかけがえない命として保育している。 ○0歳児の赤ちゃんから預かっている。乳児と幼児の関わりを通じて、自然な思いやりが育まれている。 ○年長児には、教育にも力を入れていく。 ○保護者からは、離乳食や夜泣き等、子育ての色々な困りごとについて相談がある。 ○園として、子どもの人権に関わるケア（児童虐待）に積極的な姿勢をとっており、行政などの関係機関と密に連携し、進めている。虐待ネットワーク会議の委員も担っている。 ○地域との関わりについては、園庭に入ってきた徘徊中の高齢者を保護したことがある。 ○周囲に空き家が増えている。	

	○地域住民とは、昔からのつながりがあり、「困ったことがあれば園に声を掛けて」と伝えている。 ○以前、運動会の会場として使っていた三崎中学校の校庭が使えなくなってしまった。三崎小学校まで行かなくてはならず、大変だ。 ○ふれあいデー：毎月第2・4土曜日、毎月第1・3水曜日 9時30分～11時30分。乳幼児とその保護者、小学生とボランティアを対象とした交流の場。参加費無料。	
天神町		
32	美容一搬 米田美容室 営業：月～土曜日（お客様に合わせいつでも） ○美容一搬 ○利用者は50～90代。お宅にも出張する。 ○地域とのつながりについて。民生委員・地区役員をしている。 ○「髪もそうだが、話しに来て元気になった」といってくれる人もいる。 ○地域の困りごとについて。家の周りはまだ大丈夫そうだが、民生委員として回っているところは、高齢化率が高く、気を抜くことができない。気をつけて見守っている。声掛け、傾聴の他、相談されたことはすぐに実行することになっている。 ○地域のためにできそうなことについて。小さいことの助け合いから、必ず組織化する。今、10名以上の仲間がいる。みんな志が高く、何か考え、何かを持っている、強い味方。	
33	やなぎや 営業：10～18時30分（1～2月は18時まで） ○総合衣料品店 ○従業員10名のうち、9名が三浦市民。 ○利用者は60～80代が多い。 ○ほとんどのお客様が知っている方。 ○トイレ、駐車場等を借りに来る人には使っている。 ○勤労市民センターの集まりや、区のイベントのときには、駐車場を貸している。	
34	グループホームはまゆう 営業：365日・24時間 ○認知症対応型共同生活介護 ○従業員は三浦市民19名、横須賀市民3名 ○利用者の平均年齢は83歳。 ○現在は地域との関わりがない。 ○区費も払っているので、地域の行事等に参加させていただきたいと思っている。 ○介護予防のみうらふれあいサロン（勤労市民センタ	

	ーで実施)が地域の皆さんにもっと周知されるとよいと思う。	
35	三木証券株式会社 営業：平日・8時30分～17時 ○証券会社 ○利用客の年齢層は、50～80代。 ○1953年に三浦市唯一の証券会社として開設し、65年以上になる。 ○地域とのつながりとしては、青年会議所、ロータリークラブ、商店街に加入している。	
36	三浦市勤労市民センター 開館：火～日曜日8時30分～17時 木・金曜日のみ21時30分まで 休館日：月曜（月曜が祝日の場合その翌日もお休み）、 年末年始 ○指定管理者制度で、三幸株式会社南関東支店が運営している。 ○従業員3名は、全員三浦市民。 ○利用者の年齢層は40～80代で、70代が一番多い。趣味やサークルの活動場所としての利用が多い。東岡区子ども会の役員や、自彊術の会員等には40代の方が多い。 ○利用の申込み方法は、直接センターへ連絡し、使用許可申請書を提出する。 ○駐車場は旧青少年会館隣り（旧三崎中学校プール前）の公用車駐車場25・26番がある。それ以外に、利用者は近くのコインパーキングを使っているようだ。 ○身体障害者の方には、駐車許可証を発行し、センターの前に車を停めることができるようにしている。 ○センター内で利用できる車イスを1台貸し出している。 ○SNSの情報発信もおこなっている。（ツイッターアカウント名：@miurakinrou） ○地域とのつながりとしては、年に1回の「勤労市民センターフェスティバル」がある。センターを利用しているグループが日ごろの成果を発表して、楽しくふれあう交流の場となっている。今年度は5月18、19日に開催する。 ○東岡区の理事会も毎月利用されている。 ○若い人たちに、もっと利用してほしい。	
37	井上歯科医院 営業：日曜日以外・9～19時（日によって異なる） ○歯科医院 ○利用者は幼児～高齢者まで様々。 ○地域の皆様が来所する。	

38	香貴書院 さかえ書道教室 営業：月・土曜日・9時30分～ ○書道教室 ○生徒は15名程度。子ども～大人まで様々で、横須賀市から通う人もいる。 ○昔は口コミで新たな生徒が来ていたが、最近はあまりない。 ○子どもが少ない上、「書道を習おう」という子どもは減っている。その数少ない子どもは、塾へ行く。 ○ご近所は高齢者が多い。組の役割を担うことができる人が少なくなっている。	
39	クアーズミサキ 営業：木曜日以外・9～17時 ○銭湯 ○幼児～高齢者まで利用する。	
40	(有) いづみタクシー 営業：年中無休 ○一般乗用旅客自動車運送業 ○従業員は三浦市民が多い。 ○利用者は高齢者が多い。 ○地域とのつながりは、多少ある。	
41	青木理容院 営業：火曜日以外・8～18時 ○理容業 ○従業員は三浦市民。 ○利用者は10～70代。 ○地域とのつながりについて。高齢者が多いので、気に掛けている。	
42	東洋のクリーニング富久屋店 営業：日曜日以外・9～18時 ○クリーニング全般 ○利用者の立場に立って、家でできる洗濯方法や保管の仕方、タバコのヤニのとり方等の相談に応じている。 ○利用者は40、50代が多い。 ○基本的には店舗で受け渡しをする。体の具合が悪い場合の配達是要相談。 ○地域を見ていると、高齢者が増えていると感じる。コンビニも近くにあるが、そこまで一人で行けず付添が必要になってきたり、デイサービスのお世話になっている人も多い。 ○地域のみなさんが、健康で楽しく暮らせるといいなと思う。	

43	こども英語教室・ラボ・パーティ 営業日：水曜日（他の曜日にも応相談）・18時30分～ ○自宅で教室を開いている。 ○英語で、歌を歌って体を動かしたり、劇活動をしている。 ○対象は0才児～大人まで。ただし、3才までは保護者の同席が必要。 ○現在通う生徒は、市内の幼児～中学生。 ○地域で周りと協力してできることはないか？と考えている。 ○興味のある地域住民に、参加してもらえる場を提供できたら嬉しいかな、と思う。	
44	笹本商店 営業：8～19時 ○雑貨店 ○天神町に来て60年。食器や洗剤、トイレトペーパー、掃除用具等を扱っている。 ○商品によっては、問屋がなくなってしまったものもある。高齢なので、新たな問屋を見つけて仕入れることが難しい。 ○利用客は若い人からお年寄りまで。男性客もいる。 ○トイレトペーパー等の消耗品がよく売れる。 ○同世代のお客さんが少なくなってきていて、寂しさを感じる。 ○自身の体調不良でシャッターを閉めていたとき、近所の人々が心配して家族に連絡をとってくれた。	
45	マヤ美容室 営業日：予約に合わせて営業 ○美容室 ○利用客は30～70代の主婦。 ○地域のお客さんと、最低でも1時間はおしゃべりしながらカット等をおこなっている。 ○昔は個人商店がもっと多く、お店の前に木のイスを出して腰掛けてお喋りをする機会があったが、今はなくなってきている。地域も高齢化し、井戸端会議の場がなくなってしまった。 ○人間にとって、会話はとても大切。向こう3軒両隣で自然体のお付き合いができるといいと思う。	
46	矢島医院 診察：木・日曜日以外（土曜日は午前のみ） 8～11時30分・14～16時30分 ○内科・小児科 ○スタッフは医師・看護師・事務員含め5名前後。内、3名は三浦市民。 ○患者はピーク時よりも少なくなっている。中間層（働く世代）がいない。国民健康保険の人が多い。	

	○父の代からのつながりで通院している人と、新規の患者が半々くらい。 ○本人または家族の運転で来る人が多い。 ○地域は核家族化が進み、若いお母さんたちは子どもが熱を出したときに、自分の親（おばあちゃん）に相談できず、インターネットで調べるといふ人が増えている。 ○健康のこと等相談があれば、気軽に病院に来てほしい。そういう相談する場がもっとあればいいと思う。 ○三浦市社会福祉協議会の産業医。	
47	てんじん整骨院・はり・きゅう治療院 営業日：日曜日・祝日以外・8時30分～20時30分 ○整骨院・鍼灸院 ○利用者は20～90代。 ○日曜日は予約制で、往診も承る。	
48	天神町薬局 営業日：木曜以外・8～17時（土曜は8～12時） ○薬局 ○従業員は5名。ほとんどが三浦市民。 ○利用者は60代が多い。 ○天神町で21年営業している。薬の配達もおこなう。 ○地域は高齢化が顕著で、出歩くことが大変な人が増えている。スーパーの宅配が必要ではないか。 ○若い人の転入がもっと増えるとよい。 ○薬局の営業を通じて、地域貢献ができればと思っている。住民一人ひとりのかかりつけ薬局を担っていきたい。	

ソフト面（人々の暮らし、助け合いの仕組み等） 活動団体ヒアリング

団体名	天神町子ども会	 代表 中本 みさき
活動場所	行事ごと	
活動日	行事ごと（2月、3月、7月、12月）	
参加者数	会員 約30名	

団体及び活動の概要

○年間の活動には、主に2月の餅つき、3月のいちご狩り、7月の納涼祭、12月のクリスマス会がある。

○餅つきとクリスマス会は、子ども会の会員以外も参加可能で、その場合は参加費の自己負担がある。

○クリスマス会では、お母さんたちの手作りシチューやビンゴ、プレゼント交換等があり、とても盛況になる。

○区主催の納涼祭では、子どもたちとかき氷・ヨーヨー・ゲーム等で出店し、東岡区にある子ども神輿も担いでいる。

○年会費は1200円。区からの補助金も財源である。

役員ヒアリング内容

○よかったことは、会への参加を通じて、子どもたちもお母さんたちも仲良くなったこと。

○大変なことは、役員のなり手がいないこと、子どもの数が減ってきていること。

○役員会は役員同士 LINE でやり取りし、行事前には勤労市民センターや市役所分館の市民交流スペースで打合せをしている。

○東岡区青少年健全育成協議会に参加していて、情報交換の場にもなっている。



いちご狩りの様子



納涼祭の出店の様子

団体名	婦人消防隊
活動場所	東岡区
活動日	区の防災訓練
参加者数	現在の登録は 5～6 名

団体及び活動の概要

- 東岡区の自主防災隊の一つで、構成員は全て女性である。
- 区の防災訓練に協力している。
- 市の出初式には、来賓として出席している。
- 平成 9 年には、第 13 回全国婦人消防操法大会に神奈川県代表として出場し、メダルをもらった（下記参照）。

活動者ヒアリング内容

- 以前は、市の出初式や防災訓練で操法を実演することもあったが、ここ 10 年位は昔のような活動はなく、最近は市からの依頼もない。
- 区の人たちに少しでも防災の意識を持ってもらえるよう活動している。
- 地域住民とコミュニケーションをとることで、防災についてわかってもらえたらいいと思う。



全国婦人消防操法大会 出場前の激励会の様子



出場後の新聞記事

団体名	飯島医院 健康体操教室	 講師 大塚 洋
活動場所	飯島医院 2 階	
活動日	毎週木曜日 14～15 時 (平成 31 年 4 月から毎週開催)	
参加者数	1 回あたり ～約 20 名	

団体及び活動の概要

○日本健康運動指導士会神奈川支部長大塚洋氏が講師を務めている。

○飯島医院の患者以外も参加可能。多いときは約 20 名の参加がある。

○事前登録や参加回数に決まりはなく、参加したいときに自由に参加できる。

○参加者は地域の方で、70～80 代の女性が多い。

○リハビリと併用して来る人と、健康のために自主的に来る人がいる。

○内容は、イスに座ったままできる運動をおこなっている。膝・腰をメインに足の筋トレも取り入れている。集団の体操教室だが、参加者それぞれに声を掛け、個々人の肩や腰の調子も確認しながら進めている。

代表者ヒアリング内容

○東岡区の地域性なのか、和気あいあいとした雰囲気がある。

○参加者は、運動が始まる前の時間にお喋りをする等、交流も活発である。

○見学はいつでも OK。見学の方にも一緒に参加してもらっている。

○病気になったから来るのではなく、体の調子を見るつもりで気軽に来てほしい。家でなかなか運動できない人も、ここでしっかり運動してもらいたいと考えている。

参加者の声

○友だちに誘われて参加して 1 年位。ここで体操をすると、次の日に体がすごく楽になる。イスに座ってできるのがいい。

○毎週開催するようになってから、なるべく毎回参加するようにしている。月に 2 回のときより、体の軽さを感じるようになった。先生が一人ひとりの肩や腰を触って凝っているか教えてくれるのがとてもいい。



教室の様子

団体名	べに花食事会
活動場所	勤労市民センター 2 階和室
活動日	年に 3 回
参加者数	一人暮らしの高齢者 13 名前後

団体及び活動の概要

- 神奈川みなみ医療生活協同組合は、「安心して暮らせるまちづくり」のために、組合員活動を実施している。「べに花食事会」もその一環であり、東岡町や天神町が含まれる、三崎西支部内「べに花班」の活動である。
- 勤労市民センターにおいて一人暮らしの高齢者を招き、年に 3 回食事会をしている。
- 参加費は 500 円。自力で勤労市民センターまで来ることができる一人暮らしの高齢者が対象である。
- スタッフは組合員で約 12、3 名。主な役割は、調理（8 名）と接待（4 名）。
- 組合員が、手書きの広報誌を作成・発行している。

活動者ヒアリング内容

- 平成 31 年 3 月に開催した食事会では、ひじきご飯・豚肉の天ぷら・里芋田楽・お吸いもの・アボカドポット・キャベツの和え物・ゼリーを作った（下写真）。参加者・スタッフ合わせて 35 名の参加があった。
- 品目を多くすることで、栄養を取れるよう心がけている。また、毎回レシピを参加者に渡している。
- スタッフの感想
 - ・みなさんが楽しみにしてくれている。
 - ・買い物のボランティアが大変そう。
 - ・夫も買い出しを手伝ってくれるので助かっているが、野菜等を自宅の冷蔵庫にしまっておくのが大変。
 - ・参加者は、支部の行事の一つである日帰り旅行も楽しみにされていて、「次はいつなの？」と早くから聞かれる。旅行は年 2 回開催し、行先によって参加費が変わる。
 - ・助成金を社協に申請したこともあるが、書類が多いため今は申請していない。



平成 31 年 3 月食事会のメニュー

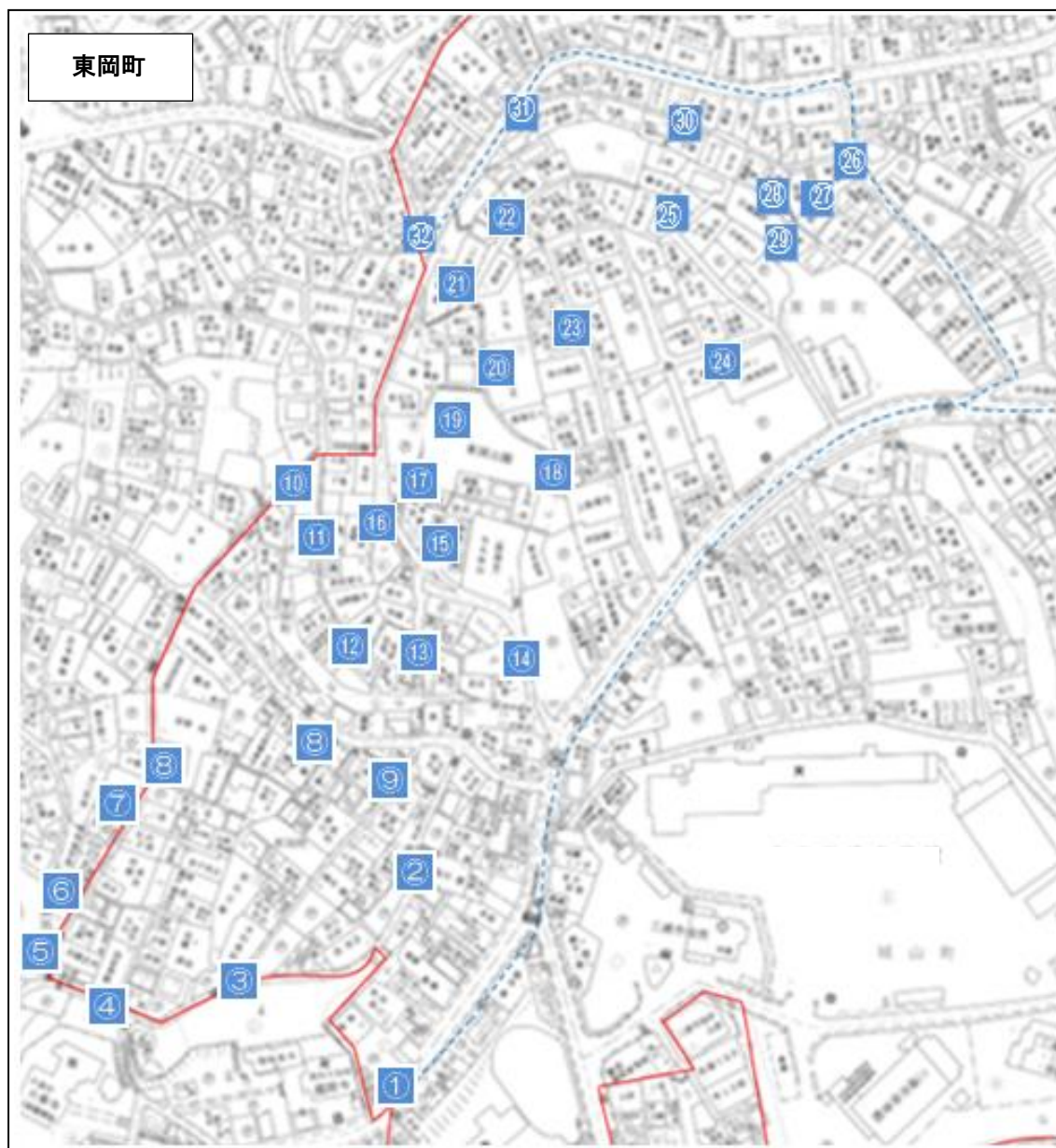


三崎西支部の広報誌

団体名	みうらふれあいサロン
活動場所	勤労市民センター 2 階大会議室
活動日	第 2・4 木曜日 13 時 30 分～15 時 30 分、第 3 木曜日 10～12 時
参加者数	20 名前後
団体及び活動の概要 ○地域包括支援センター「おまかせ」が三浦市から受託し、運営している。 ○対象は 65 歳以上で、勤労市民センターまで来ることができる人。 ○事前の申し込みは必要なく、市内全域から気軽に参加していただくことができる。 内容について ○「おまかせ」職員とボランティアが、介護予防の運動を中心に、脳トレ・健康講話等を実施している。 ○第 4 木曜日は、ボランティアを講師に、高齢者でも無理なくできるダンスを実施している。 ○3 ヶ月に 1 度、末病センターによる体組成や骨密度の出張計測をおこなっている。	
活動者ヒアリング内容 ○参加者は、東岡区の在住者は少なく、三崎地区全体から徒歩やバスで来ている。 ○参加者同士が顔なじみになり、声を掛け合っている様子。 ○介護保険の申請や健康の不安があれば、随時包括支援センターの職員が相談に応じている。	
 認知症予防の脳トレ  ダンス	

ハード面（ユニバーサルデザインによるまちづくりは進んでいるか？）

下記地図上の番号は、実際に東岡区内を歩いてみて感じた危険箇所やバリアフリー化の状況を示している。



東岡町		
1	2人ですれ違うのがやっとの細い歩道に、ごみステーションがある。	
2	アスファルトに凹凸、ひび割れがあり、一部地面が露出している。	
3	ごみステーション背面のブロック塀が、一部欠けている。	
4	三崎下町につながる階段。真ん中に手すりがついている。	

5	道路の端が窪んでいる。 アスファルトがひび割れ、 一部剥がれている。		
6	住民の通り道。道幅は、2 人がやっとすれ違うこと ができる程度。排水溝が道 の真ん中にあり、その脇に は苔生した土がある。 木と壁に囲まれていて、日 中も薄暗い。		
7	車は通行できない幅の路 地。両側に住宅が並んで いる。		
8	路地に階段があり、段差の 真ん中がひび割れている (写真①)。 同じ路地に、もう1ヶ所階 段がある(写真②)。	 	

9	路地に入ると、側溝上部のコンクリートが崩れている。 その先に階段があり、段差部分がひび割れている。	
10	区界にある急な坂道。	
11	排水溝に沿って、道の左右に数cmの段差がある。 道を進んだところにある空き地には草が茂っている。	
12	人が一人通れる幅の路地。 消火器が設置されている。	

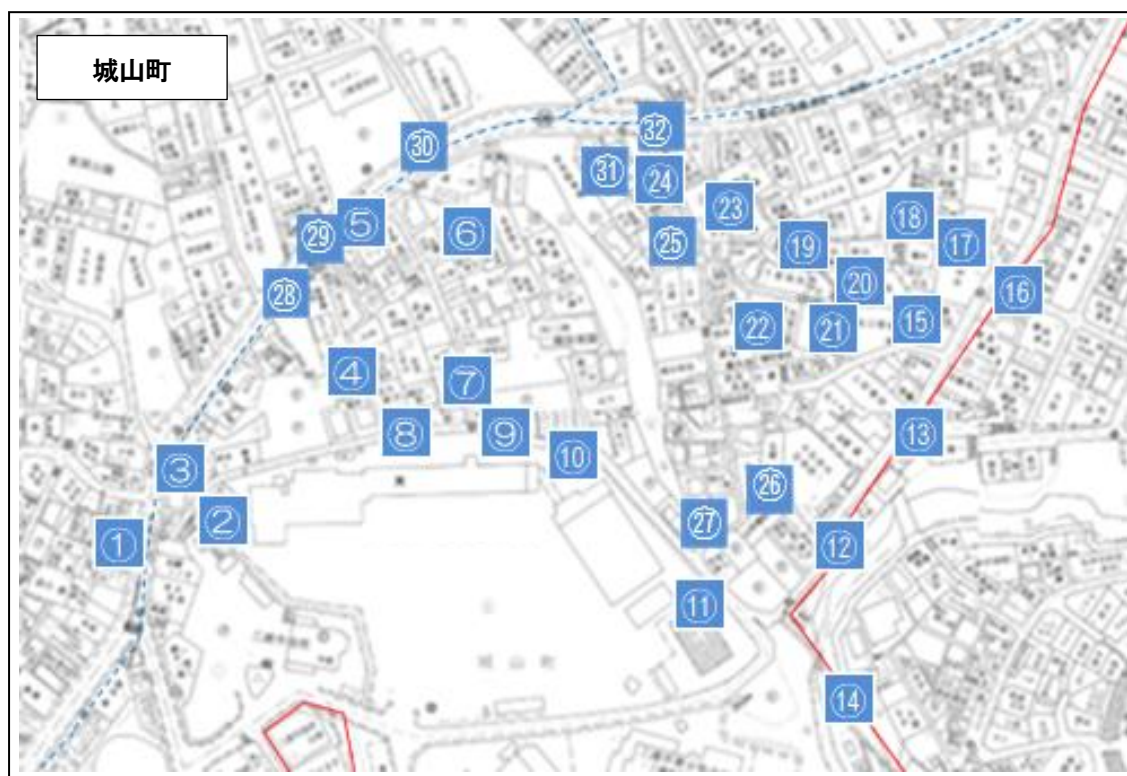
13	階段。 手すりがついている。	
14	長く急な坂道。緩やかにカーブしている。	
15	地層が露出している。	
16	立体的なごみステーション。	
17	排水溝の周りのコンクリートがひび割れている。	

18	東岡公園の入り口（写真①） 入り口の足元には草が生えている（写真②）。 公園横の道（写真③）には、道幅を狭めるほど草が茂っている。	  
19	東岡公園 すべり台やブランコの遊具がある。 公園内の地面は草刈されている。	 
20	草が茂り、道幅が狭くなっている。 道の一部には、不規則な段差がある。	 

21	階段が続いている。上の方に手すりがついている。	
22	階段にひび割れがあり、表面が剥がれている。	
23	狭い道。その奥は更に幅が狭くなっている。	
24	ごみステーション。箱とネットが設置されている。	

25	急こう配の下り坂。 その下の階段は、住宅につながっている。	
26	緩い坂。道幅が狭く、車は通行できない。	
27	段差があり、段差の脇に草が茂っている。	
28	路地に一部段差がある。 道幅は狭く、車いすが通行できない程度。	

29	住宅につながる路地。幅が狭く、階段がある。	
30	狭い路地。 道の両側が古いブロック塀になっている。	
31	路地と道路の合流地点に段差がある。 仕切弁がアスファルトから飛び出ている。	
32	草木が茂り、道路に垂れ下がっている。	



城山町		
1	市役所の駐車場続く階段。	
2	東岡城辺稲荷。 そのすぐ奥に、平成 25 年 3 月に廃止された、旧東岡児童会館がある。毎年 2 月、同施設の前で餅つきをおこなっている（11 頁参照）。	 

3	狭い坂道。	
4	排水溝の合流地点。周りのアスファルトに窪み、ひび割れがある。(写真①) 排水溝に沿って、窪みやひび割れがある。(写真②) アスファルトのない部分に、ブロックを敷いてある。(写真③) 路地に沿って、排水溝も曲がっている。(写真④) 全体的に、排水溝と周りの地面に段差があるため、躓きやすく、水が溜まりやすい。	   
5	土手沿いにフェンスが設置されている。	
6	アスファルトの舗装がない。	
7	排水溝に沿って、窪みやひび割れがある。	

8	排水溝の砂利が窪んでいて、雨の後は水が溜まりやすい。	
9	道の真ん中がひび割れている。	
10	消火栓がある。周りのオレンジのラインが消えかかっている。	
11	鋭角なY字路。	
12	金属製のごみステーション。	
13	アスファルトの境に、窪みとひび割れがある。	

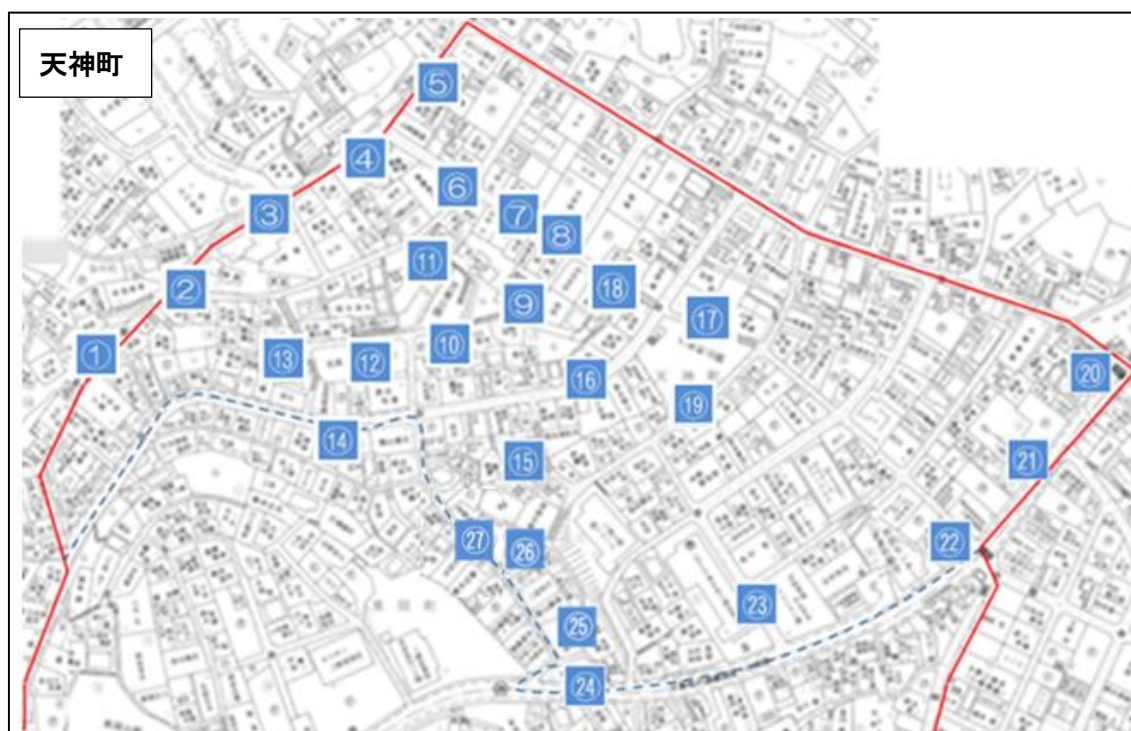
14	諏訪区・北条湾方面につながる道。 出入口に車止めが設置されている（写真①）。 道の片側に手すりが設置されている。逆側は、山の斜面になっている（写真②）。 ガードレールが設置されている場所があるが、一部腐食している（写真③）。	  
15	排水溝の中に、雑草が生えている。	
16	アスファルトがひび割れ、一部剥がれている。	
17	道の真ん中に排水溝があり、アスファルトとの境に段差がある。	 
18	排水溝の蓋に隙間がある。	

19	幅の狭い路地。写真奥の角を曲がると、更に路地が続いている。	
20	狭い路地の階段。	
21	路地の段差。近所の人がバイクで上がれるように、台を置いている。	 
22	城山児童公園。 坂の中腹にある。出入り口が複数あり、坂の上からも下からも入ることができる。 ブランコ・すべり台・シーソー・ジャングルジム・グロープジャングルの遊具とベンチがある。	 

23	消火器が設置されている。	
24	排水溝の蓋に段差がある（写真①）。 路地の十字路の真ん中に排水溝があり、つなぎ目のコンクリートがひび割れている（写真②）。 アスファルトの一部がひび割れ、凸凹している（写真③）。	  
25	消火栓がある。	
26	道の真ん中に排水溝があり、アスファルトとの境に段差がある。	

27	車 1 台通ることができる幅の坂道。	
28	城山からバス通りにつながる階段。手すりが設置されている。 階段の一部に大きなひびや欠けがある。	 
29	歩道にあるごみステーション。 竿からネットを吊るし、限られたスペースを活用している。	
30	バス通りの歩道。草が茂り、歩道を半分覆っている。	
31	急な階段。手すりがついている。	

32	消火栓がある。	
----	---------	---

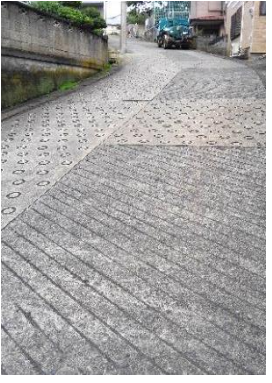


天神町		
1	海外区との境にある尻っ ぷり坂。 写真の右側が天神町。	

2	コンクリートがひび割れている。	
3	ゴミステーション。車通りの多い道路沿いに設置されているため、奥行きがない。	
4	消火器が設置されている。	
5	アスファルトに凹凸がある。ひび割れ、一部が剥がれている。	
6	道路に排水溝があり、凸凹している。	

7	防火水槽がある。	
8	プラスチックケースを利用したごみステーション。	
9	児童公園方面へ降りる階段。 階段の脇に瓦礫が埋まっている。	 
10	児童公園。 ブランコ・うんていの遊具、ベンチ、水飲み場がある（写真①②）。 公園の奥のブロック塀に倒木がある（写真③）。	  

11	公園の奥から上がっていく階段がある。	
12	児童公園の脇に、崖崩れ防止の塀がある。	
13	長い階段。 上の方は手すりがある。 下の方は段差が不規則で 手すりが無い。地面がひび 割れている。	
14	ゴミステーションが排水 溝の段差の上にある。	
15	長い階段。手すりと踊り場 がある。	

16	急な坂道。コンクリートに滑り止めの加工が施されている。		
17	天神町公園の周辺。 階段（写真①）。 やや急な坂道（写真②）。		
18	長い階段。 登る人の右手側に手すりがある。 階段上部にのみ、両側に手すりがある。		

19	天神町公園。 納涼祭や桜まつりの会場 となっている（11 頁参 照）。 すべり台・ブランコの遊具 とベンチ、水飲み場、簡易 トイレ、東岡区防災隊器具 庫が設置されている（写真 ①②）。 入り口が坂の途中にある （写真③）。	 ①  ②  ③
20	諸磯区・原区との境にある T 字路。 信号には、交通弱者用押ボ タンと点字ブロックが設 置されている。	 
21	バス通り沿いの歩道。 部分的にガードレールが 設置されている。	 
22	交差点。点字ブロックが設 置されている。	 

23	急な坂道。	
24	狭く急な階段。	
25	狭い路地。	
26	階段。手すりとスロープがある。	
27	路地のアスファルトが窪んでいる。	

東岡区支え合いの地域づくりの会について

本書の作成は、まず区長・住民有志と共に、東岡区の現状と「支え合い」の大切さについて、意見を交換する時間を何度も設けるところから始まっている。

これは、「はじめに」でも述べている「地域診断を住民参加で実施するための工夫も求められよう。そう、決して“押し付け”ではない地域住民による地域住民のための『地域包括ケアシステム』を構築するために…」という部分の実現を意図したものである。本書の作成作業を、住民が主役の地域づくりの一里塚ともなる取り組みにしたいと考えた。

平成 30 年 12 月より、話し合いに参加する住民有志の集まりを「東岡区支え合いの地域づくりの会」と命名し、月 1 回の会合と地域診断をおこなうことになった。支え合い活動の創出に向けた会合や地域診断を通して、徐々に協力者は増えていった。平成 31 年 3 月末現在、地域診断は終了したが、約 10 名の住民有志による自主的な活動として、会合が継続されている。

以下、「東岡区支え合いの地域づくりの会」の取り組みの経過を記載する。

日時・場所	実施内容	使用した資料・様子等
8～9 月頃	地域住民への提案と説明 - 生活支援コーディネーター（齋田）より、「ずっと安心して暮らせる地域」のために、できることを考え、取り組んでいくことを、住民有志に提案した。声を掛けたのは、区長・民生委員・三崎地区のサロンに協力する介護予防インストラクター・三浦市ボランティア連絡協議会に所属するボランティア等。 - このとき、区（自治会）としてではなく、地域づくりの重要性に気付いた住民有志が、主体性を持ち取り組むべきである旨を丁寧に説明した。	
10月16日（火） 19～20時30分 三浦市役所分館第3会合室	住民有志との話し合い - 参加者 6 名 - 住民有志と集まり、改めて支え合いの地域づくりについて説明をし、今後について話し合った。 - つながりが少ないといった区の現状や以前活発だった老人会活動の様子など、それぞれの区に対する思いを話し、盛況となった。 - 今後、座談会や地域診断を進めていくこととし、座談会の日程を 11 月で決めた。	

▲齋田が作成し、区の回覧板で配布した。

11月22日(木) 19～20時 勤労市民センター	支え合いの地域づくり座談会 - 参加者 9 名 - カードゲームを通じて、ご近所の助け合い体験ができる「助け合い体験ゲーム」をおこなった。 - ご近所の具体的な困りごとや支え合いの必要性について話し合った。東岡区の現状を調べるため、この日参加した住民有志で調査と集まりを実施していくことが決定した。	
12月8日(土) 13～15時 勤労市民センター	支え合いの地域づくりの会① - 参加者 9 名 - 会に参加した動機や、地域への思いを話し、意見を交換した。そこから、「東岡区が、一人暮らしになっても安心して暮らせる地域になってほしい」という、当会の希望がまとまった。 - 地域の調査は、12月17日から始めることに決定した。	 ▲齋田が作成し、区で回覧したお知らせ。地域診断と当会について併せて周知した。
1月9日(水) 13～15時 勤労市民センター	支え合いの地域づくりの会② - 参加者 10 名 - これまで夜間、週末と開催してきた当会を、平日日中、お茶を飲みながら気軽に参加できる会にしていこうことになった。 - 東岡区在住の障害のあるお子さんの保護者の参加があり、障害者の暮らしについて意見を交換した。	
2月14日(木) 13～15時 勤労市民センター	支え合いの地域づくりの会③ - 参加者 11 名 - 勤労市民センターでおこなわれている支え合いの活動について、見学・話し合いをした。 - 地域包括支援センター主催「三浦ふれあいサロン」を見学した。 - 神奈川みなみ医療生活協同組合三崎西支部内「べに花班」が開催する一人暮らし高齢者対象のお食事会(40頁参照)を手伝う組合員の参加があり、その活動について話を聞き、意見を交換した。	

3月12日（火） 13～15時 勤労市民センター	支え合いの地域づくりの会④ - 参加者 8 名 2 月末で訪問調査を終了し、その調査結果を共有した。 - 今後の予定について話し合った。3 月末の桜まつりに社協と当会で参加することと、来年度から調査結果を踏まえ、課題の解決について検討することが決定した。 - また参加者より、当会の取り組みから、「老人クラブ」の結成につなげたいという提案があった。	
--------------------------------	--	---

地域踏査における住民有志の参加状況について

日時・場所	実施内容	使用した資料（ヒアリングシート）
12月17日～ 2月26日 （計9日間） 東岡区	住民ヒアリング 天神町：12月17日、1月15・17・24・30日 東岡町：1月24・30日、2月12・25・26日 城山町：2月21日 実参加者数：8名 延参加者数：30名 ヒアリング実施件数：89件 - 当会構成員と齋田が共に調査をおこなった。人数に応じて2名以上のグループに分け、担当区域を細かく分ける等してから、各戸を訪問した。 - ヒアリングリシートを元に聞き取りをおこなうことで、質問事項を統一した。	支え合いの地域づくりに向けた地域診断・ヒアリングシート（個人宅用） 調査した日にち 平成 年 月 日 調査したメンバー（ ） 調査した地区（ ） 性別（男・女） 年代（10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代・80代・90代・100代） ・東岡区のいいところってどんなところですか ・地域住民間の支え合いでできていることはありますか ・生活で困っていること・こんな手助けがあったらいいなと思うことはありますか ・地域の活動に参加する機会がありますか・ご近所で集まる場所や機会がありますか ・これから東岡区はどんな地域になってほしいですか ・老人会などの地域の集まりがあってほしいですか ・地域のための活動に参加してみたいですか
1月30日～ 3月31日 東岡区	店舗・会社等ヒアリング ヒアリング実施件数：48件 訪問またはアンケートによる調査を実施した。この訪問やアンケート配布・回収を、当会構成員と齋田が共にこなした。	東岡区内の企業・店舗各位 東岡区の地域づくりのための調査にご協力お願いします。（詳しくは裏面をご参照ください） 社会福祉法人三浦市社会福祉協議会 会長 齋田 晋正 東岡区住民有志 東岡区の支え合いの地域づくりに向けたアンケート（企業・店舗用） ・企業・店舗名（ ） ・回答者（ ） ・回答日（平成31年 月 日） ・企業・お店の内容 ・営業日・時間 ・働いている人は三浦市民の方が多いですか ・利用するお客様の年代 ・地域とのつながり、関わりはありますか ・地域をみていて、困っていそうだと思うこと、こんな手助けがあったらいいなと思うことはありますか（お店で困った事例などありますか） ・地域のためになにかできそうことはありますか （東岡区では駅前に地域の人が集まって交流できる場所がなくて困っています） ご協力ありがとうございます。後日、アンケートの返答に伺います。

2月12日～ 3月31日 東岡区	団体等ヒアリング ヒアリング実施件数：5件 ・実施内容と方法は、上記「店舗・会社等ヒアリング」と同じ。	様 東岡区の地域づくりのための調査にご協力お願いします（詳しくは裏面をご参照ください）。 社会福祉法人三浦市社会福祉協議会 会長 川崎 孝三 東岡区生活者部 東岡区の実践の地域づくりに向けたアンケート（団体用） ・団体名（ ） ・回答者（ ） ・回答日（平成31年 月 日） ・活動場所 ・活動日 ・会員数、男女の数、年代 ・団体の活動内容 ・活動してよかったこと、困っていることはありますか ・地域をみていて、困っていそうだと感じる、こんな手助けがあつたらいいなと思うことはありますか ・地域のためになにかできることはありますか お願い：代表者の方の顔写真の撮影（後日）と活動風景の写真を！後ご提供お願いします ご協力ありがとうございます。 までお返しください
---------------------------------	---	--

結果

東岡区支え合いの地域づくりの会と共に進めてきた地域踏査から見てきた東岡区の課題や強みを挙げ、今後に向けた提案をする。

1. 課題

①高齢化に伴い、支援が必要な高齢者が増えている。

比較的核家族化が緩やかな三浦市（世帯人員 2.47 人）にあって東岡区は、世帯人員 2.11 人と、神奈川県全体の 2.21 人（平成 27 年国勢調査結果確定数に基づく推計）と比べて少なく、一人暮らしや夫婦のみで暮らす世帯が多いことを物語っている。また、ヒアリングでは、「一人暮らしなので、頼る人がいない。」という当事者と、「近所に一人暮らしの高齢者が多い。」「一人暮らしの人が多く、心配な人もいる。」という近隣住民の、両方からの声が聞かれた。元気に暮らしている高齢者もいる一方で、生活上の困りごとから、緊急支援が必要となる住民も少なくない。すでに地域包括支援センターや関係機関が関わっているケースもあれば、調査中に一人暮らしの高齢者の様子が心配で包括支援センターにつないだケースや残念ながら高齢者が孤独死したケースもあった。

②日常的な地域でのつながりに差がある。

区として、季節ごとの行事を、役員が中心となって執りおこない、隣組でしっかりとご近所付き合いがある等、つながりの強さを感じるが、しかしそれは限定的で、一部住民の参加にとどまっていたり、以前は活発であったという老人会も 8 年前に解散している。調査では、「ご近所でのお茶飲み会も今はない。」という声や「近所付き合いはほとんどない。」「支え合いはない。」という回答も一定数ある。地域でご近所とのつながりがある人となない人、つながりが必要だと感じている人と感じていない人の温度差があるようだ。また、現状で住民が参加できる日常的な集まりというものは、確認することができなかった。

③気軽に利用できる居場所がない。

東岡児童会館が閉鎖してから、区では、自由に使える会館がない状態が続いており、区の役員会や子ども会は勤労市民センターを有料で使用している。公園や旧児童会館前で納涼祭や餅つき等の区の行事を開催しているが、住民有志からも「区に会館がなくて不便。」「お茶会をやるにも会場費がかかってしまう。活動資金はどうしよう。」という声があった。

居場所としては、区の会館がなくても、行事をおこなっている公園や勤労市民センター、市役所の分館、区内の事業所で借りられるところを探す等、さまざまな手段がある。確にかかつてのように自由に使うことができる会館はなくなったが、実際には選択肢があり、受益者負担によって解決できると思われる。ただし、財政面に関しては補助が必要かもしれない。

有料の場の財政的な面は、補助や参加費の徴収等で解決ができそうだが、「区民の居場所」という気軽さや安心感も求められている。調査期間中、試行的に支え合いの地域づくりの会を勤労市民センターで月 1 回定期開催してみたが、このように定期的に利用することで、区民会館でなくても「身近さ」や「居場所」を感じることができるのではないかと。

④入り組んだ路地が多く、坂や階段があり生活のしづらさがある。

道路の整備状況等、ハード面の調査を実施した結果、高齢者にとっては生活のしづらさがあることがわかった。一方ヒアリングでは、「小さな階段と坂があるので、ゴミ出しや買い物等は近所で助け合っている。」という声や、幹線道路に隣接する家の住民からは、「区内にバス停や飲食店、商業施設、診療所もあるので便利。」という声も聞かれた。

2. 強み

①季節ごとの行事があり、区の役員のつながりが強い。

自治会活動が活発におこなわれてきた歴史があり、現在も他の区ではなくなってしまった組織や行事が続いている。東岡区青少年健全育成協議会や婦人消防隊、子ども会、区の役員 OB が集まる独自の交流会等がそれにあたる。区の行事としては、桜まつりや納涼祭、清掃活動がある。ヒアリングでは、行事の周知不足による参加者の少なさ等が課題として挙げられていたが、区の役員を中心にまとまっている点は支え合いの地域づくりの基盤となる大きな強みである。

②近隣住民に助け合う関係がある。

仮説の中で、「地域のつながりが薄れている。」、住民有志からは「下町のようなつながりはなく、尾上区のようなまとまりがない。」という声があったが、調査の中では、「近所付き合い、声の掛け合いがある。」さらに「見守りや助け合いがある。」という回答は多かった。草刈や買い物などの送迎等具体的な支え合いの様子も多く聞かれた。一方で、「近所付き合いや支え合いはない。」という声もあったが、一部の住民であっても助け合う関係があることは強みであり、区全体での助け合い活動をつくり上げていく際の活動例になるだろう。

③生活や地域づくりを支える診療所や商店がある。

区の中には、市役所を始めとした公共施設があり、飲食店等の商業施設、診療所等の医療機関がある。地域に密着し、営業するお店もある。ヒアリングでは、「出前と合わせて高齢者の買い物支援をしている。」「診療所内に体操教室を設けている。」「区の行事に手伝いとして参加している。」という事業所もあった。また、「今後お店を交流の場を利用してほしい。」「行事に参加していきたい。」という声もあり、支え合いの地域づくりを進めていく上で協働できる可能性がありそうだ。

④ 支え合いの地域づくりにむけて、熱意のある住民有志がいる。

一番の大きな強みは、今回の支え合いの地域づくりに有志として集まり、調査や話し合いを進めてきたメンバーがいることである。「友人に声を掛けられた。」「何かできることがあれば。」と集まったメンバーは、話し合いや調査を経て、顔見知りの関係から一歩、二歩と近づき、一緒に支え合いの地域をつくっていきたいという思いを強くしているようだ。

また調査の中でも、「手伝うよ。」「支えられるのではなく、何かしたい。」という声もあった。動き始めた住民を見て、同じ思いを持つ仲間が少しずつ増えているようだ。

今後に向けて ～「誰もがいつまでも安心して暮らしていくために」

住み慣れた地域社会の中で、誰もが・いつまでも・安心して暮らしていくための支え合いの地域づくりを進めるため、今回は、住民有志とともに調査と話し合いを進めてきた。この取り組みを通じて、東岡区では新たな動きも出始めている。

今回のヒアリングは悉皆ではなく、その数は全世帯の 6 分の 1 にとどまった。ヒアリングに参加した有志からは、「一度の訪問では、困りごとを聞き切れなかった。」「若い世代からの聞き取りがほとんどできていない。」という声も挙がっている。

今後の支え合いの地域づくりに向けて、今回の調査の結果をきっかけとして、地域づくりを進めてもらうべく、以下の提案をする。

1. 有志によるメンバーで、できることから進めていく。

すでに有志の意見で、老人会の再結成、5月のフレイルチェック、6月にはお茶会も企画されている。無理は決して長続きしないので、できることから取り組んでいただくことを望む。できることから進める中で「次はこうしよう」「こうすればできるかな」等徐々に活動が広がっていくだろう。また、活動メンバーは支える側、支えられる側と明確に分けずに、一緒に活動できる人を増やしていくことが大切であろう。

2. ニーズを明らかにして、更なる意欲に結びつける。

地区を限定した訪問調査や、若い世代を対象にした聞き取りをしてもいいだろう。そこで顕在化したニーズが、有志の「解決したい」という意欲と結びつくことを望む。

3. 支え合いの協議体をつくる。

住民の困りごとや支え合いに関する情報を共有し、関係機関につないだり、地域でできること

を模索する集まりである「協議体」を地域でつくることを提案したい。一人暮らしの高齢者が多い中で、区や民生委員、住民だけでは支えきれないケースも多いため、小さな「協議体」があることで、地域包括支援センターや関係機関と連携を取りながら支え合いの地域づくりを進めていくことができる。地域の中の介護等を「我がごと丸ごと」として解決していくためにも有効である。その組織化に際しては、何も一から、という訳ではなく、お茶会等の活動を通じて、徐々に協議体に参加する構成員を増やしていけばいいだろう。また、一つの地区では、支えきれない課題もあるため、区を超えた「協議体（第2層）」に加わっていくことも重要である。その際は、専門職や福祉関係者を中心として構成される協議体ではなく、住民主体の協議体であることが不可欠である。

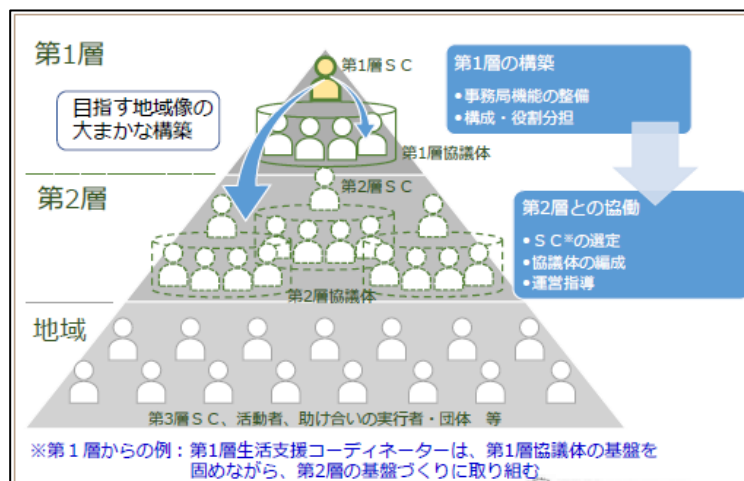
最後に三浦市社協と三浦市が取り組むべきことを記述する。

三浦市社協が取り組むべきこと「支え合い活動のサポート」「地域包括ケアシステムの構築」

三浦市社協は、社会福祉協議会が持つ「住民主体の原則」に則り、住民の支え合い活動の創出や運営のサポートをおこなう。東岡区の課題解決に向けた地域住民間の支え合い活動を側面的に支援する。例えば、必要な勉強会を地域住民と共に企画・実施したり、「協議体」の発足に向け、住民と各機関や他地区とのネットワークづくりをおこなう。そのために、生活支援コーディネーターは、これからも地域に出向いて情報を収集していく。

行政が取り組むべきこと「地域の支え合い活動を創出する具体的な支援の実施」

三浦市には、各地域における支え合い活動を推進する役割がある。高齢者のニーズと社会資源の状況を把握し、地域における取り組みを総合的に支援・推進する役割を担う「生活支援コーディネーター」と、その生活支援コーディネーターの役割を補完する組織「協議体」の設置が義務付けられ



ている。この協議体と生活支援コーディネーターは、支え合う地域の広さによって「第1層（三浦市全域）」「第2層（中学校区）」「第3層（小地域）」に役割分けされている。現在三浦市では、第1層の生活支援コーディネーター2名と、同じく第1層の協議体を設置している。しかしながら、これらの取り組みは第2層や第3層における支え合い活動を創出し、推進するには至っていない。三浦市は、住民の動きを見守るだけでなく、具体的な支援を進めていく必要があるだろう。

う。

また、三浦市は「地域福祉計画」の策定時期にある。策定作業を通じて、生活困窮を含めた多様な困りごとを適正に把握し、計画に定めることで、解決に向けた活動を進めていくことが望まれる。

編集後記

東岡区での地域踏査を終え、地域診断書を発行することができました。まずは、お忙しい中、地域の実情について丁寧に、そして、率直なご意見をお聞かせくださいました住民の皆様、関係各位に、感謝を申し上げます。

そして、今回の取り組みの重要なメンバーとして当初からともに取り組んでくださった住民有志の皆様は心より敬意を表します。今回のような形で、住民有志の皆様と調査や支え合いづくりを進めていくことは私にとっても初めてのことでしたので、うまく進行できないことも多々ありましたが、皆様の「支え合う地域をつくっていきたい」、「安心して人生の最期を迎えられるような地域にしたい」という熱意や「私も何かできることがあったらしたい」という思いに感銘を受けながら、私自身もたくさんのことを学ばせていただきました。

また、3月に急逝された前渡邊区長は、支え合いの地域づくりの提案をする私の話に真剣に耳を傾け、住民の思いを汲み取る機会になればと賛同してくれました。柔らかな物腰で「〇〇さんいつもよくやってくれてありがとうね」と住民に声を掛けながら活動されていたことを懐かしく思います。

最後に、この支え合いの地域づくりに参加された有志の皆様からの一言を記載します。寒い中のヒアリング調査やお店まわり、地域づくりの話し合い、本当にお疲れ様でした。東岡区の皆さんが、住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけるよう、これからの活動をサポートさせていただきますのでよろしくお願いいたします。(生活支援コーディネーター 齋田聖子)

○支え合いの地域づくり 有志の皆さん



※3月に逝去された前渡邊区長（後列の左から3番目）

※11月22日座談会での写真です。その後会に参加したメンバーもいます。

渡辺庄司(前区長)

社会福祉協議会から地域がまとまっていくようにと声を掛けてもらい、今回の取り組みを始めました。区の役員会では住民からの声は吸い上げにくく、決まったこと等を会から住民に下ろすことが多いので、調査では、区への意見を吸い上げることができるのではないかと考え

ています。聞いた意見が実現できるかは別として、区民の意見を知る機会になると思います。
この会を将来につなげられたらと思います。(会での発言の中から抽出)

(以下順不同・敬称略)

米田ふさ子

参加者の方々と日々、今まで以上に親しくなれたと思います！話をすることの大切さを感じます。地域を回ってみて、思うこと、やりたいこと、ちょっと気付けばできること、それがわかった気がします。新しく区長になった西野さんが今、いっておられる隣近所の付き合い方の大切さを、ある程度区として示してあげることも必要かと思います。私としてはゆくゆく、有償ボランティアの導入もしてみたいな…と思っています。

石井和子

11月22日に初めて参加させていただきました。前区長さんにお会いして、温かい人柄に感動いたしました。お互いに声を掛け合いましょう。よろしくお願いいたします。

望月玉江

普段は、地域包括支援センターのサロンでお手伝いをしています。調査の中で、私が訪問した天神町の各家では、隣近所の声掛けが多くありました。

森久美子

回覧板で会のことを知り、参加しました。地域のことを知りたいと思っていたので、活動を通じて地域の人達の交流や支え合い、問題点を少しだけですが、知ることができました。地域の中のひとりとして自分の関われることをやっていきたいです。

新谷小夜子

1回しか参加できませんでしたが、そこに集まった人達はほとんど知らない人たちでした。私はギリギリまで自宅で過ごしたいと思っています。支え合うにも知らない人同士では無理ですね。自宅で過ごすという最後の目標のために、余裕ができたなら、支え合いの会に進んで参加したいと思います。皆さんは自分の最後をどういう形でどこで迎えるかという答えは出ましたか？

原初枝

支える会がどんな活動をしているのか、私のボランティア活動の参考になるのではないかと思います。城山をアンケートに基づいて訪問にまわりました。昔と違ってご近所のお付き合いもなくなり、たまり場もなくなっているようで、「なにか活動できる場所があれば参加してみたい」という意見の人がいました。私もそれなりに手伝いしていこうと思います。

関口ふく

同じ町内にいてもお声をお掛けしたこともない方や一人暮らしでもしっかりと生活なさっている方もいて、感心しました。区の公園の掃除・桜まつり・盆踊りのときも区の人たちに声掛けがあったほうがいいのかもしいかなと思いました。

中村幸江

参加している人からお誘いをいただき、どんなことをしているかを見てみたくて参加しました。仕事の関係であまり参加できなかったけど、いろいろ話を聞いて参加できる範囲でまた参加したいと思います。

水野節子

40年以上も東岡区の住民でありながら、この活動で、今まで顔を合わせたことのない方ともお知り合いになることができました。また、歩いたこともない道、考えたこともない、この地域の問題等、多くのことを知ることができました。今、住み慣れたこの町を、大切にしたいと思っています。

高木弘子

社会福祉協議会職員のお誘いで参加させていただきました。今までは顔見知りの方でもあまり話す機会はありませんでしたが、この会を通じて親しくなれました。気軽に立ち寄れて話し合える所があれば、いろんな方のいろいろなことが聞けるのでは、と思いました。

品川信子

調査ではお店屋さんを回らせてもらいました。忙しそうなお店もあれば、気持ちよく回答してくれるお店もありました。地域づくりの仲間に入りたいという人もいました。東岡は会館がないのが困ります。三崎小学校の空き教室を使わせてもらえたら、高齢者と小学生の交流や見守りもできてよいと思います。いずれは自分がお世話になるのだから元気なうちは自分ができることは協力したいです。

地域包括ケア推進のための地域診断書

社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

〒238-0102 三浦市南下浦町菊名 1258-3

地域包括支援センターおまかせ

発行人：川崎喜正

編集責任者：成田慎一

編集人：齋田聖子

TEL 046-888-7347 FAX 046-889-1561

※本紙は「神奈川県社会福祉協議会平成 30 年度支え合いの地域づくり推進モデル事業」の助成を受け発行しました。